

学校環境緑化 モデル事業



緑の募金では、「ローソン緑の募金」並びに㈱ローソンの募金寄付により都道府県緑化推進委員会推薦事業として「学校環境緑化モデル事業」を実施しています。

校地内の樹木の整備

北海道深川市立深川小学校



事業概要

本校校地内の環境改善のため、老朽化した樹木の整備を行った。グラウンド南側の樹木は枝が道路にはみ出していたため、枝打ちを行った。西側の樹木は、植樹時に木と木の間隔が近く、互いの生育に影響を与えていたため、成長の度合いを確認の上、伐木を実施した。また、前庭にサクラ2本とハナモモ1本、グラウンド西側にミズナラ1本を植樹した。

事業成果

本事業の実施により、グラウンドの環境が改善され、遊びや授業の際に児童が安全・安心で心地よく過ごせるようになった。枝の落下や落ち葉の堆積などが減少し、地域住民にとっても良好な環境となった。また、記念式典において前庭に植樹を行った際、代表児童が土かけを行い、その様子を全校児童が見守ったことで、緑化や環境保全に対す

る意識の高まりが見られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・環境が整備され、子どもたちが心地よく過ごせる環境となったことをうれしく思う。地域にある学校として、卒業しても親しみを持って関わっていききたい。(PTA)
- ・これまで植樹してきた樹木の老朽化に伴い、枝が落ちるなどの心配をしてきたが、今回の事業によりその心配が軽減された。(地域住民)

参加者の声

- ・深川小学校の環境が良くなり、うれしい。また、子どもたちの緑への関心も高まり、地域の緑を大切にする意識の向上につながったと思う。(PTA)
- ・グラウンドの周りの木がきれいになってうれしい。鬼ごっこをしたり、虫を捕まえたりしてたくさん遊びたい。(児童)



枝払い作業前、作業後



伐木作業前、作業後



植樹の様子



全校児童と式典参加者

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：4本
除伐面積：1.25ha
イベント：1回

参加者数

学内：253人
学外：9人
計：262人

樹種

サクラ、ハナモモ、ミズナラ

青葉が茂る大樹となれ! ゆたかな青葉プロジェクト

北海道釧路市立青葉小学校



事業概要

先人の思いがこもった敷地内の樹木の手入れを行うとともに、様々な樹木や草花の植樹・整備を進めることにより、児童が学習活動や遊びを通して豊かな緑に触れ、四季折々の自然をより身近に感じられることを目指した。また、豊かな緑が敷地内の強風や暑さを和らげ、さらに二酸化炭素を吸収して酸素を生み出すことから、SDGsと関連付けて学びを深めることもできると考える。

事業成果

荒天後の樹木の枝折れや倒木の心配はあったが、安全を確保でき、見通しも改善された。また、古土を剥がして土壌改良を行ったおかげで、跡地にビニルハウスを新設できた。水やり用水道修繕は計画どおりに進まなかったものの、安全を最優先に事業を行えた成果は十分である。来年度に向け、地域の方から花の種を分けていただいたことで、緑化運動のさらなる広がりが期待される。

事業をよく知る関係者の声

- ・作業終了後、折れた枝などは大幅に減り、安全に過ごせる環境となった。また、植樹した木々を毎日観察し、声をかける様子も見られた。高学年では、SDGsとも関連させながら、緑化に関する関心が高まった。教育委員会からは、樹木の手入れなどに十分な予算を割くことが難しい中、本事業に取り組めたことへの感謝の意が示された。

参加者の声

- ・記念式典には、教育長をはじめ、ローソンの関係者など多数の参加があった。式典は1年生の生活科の学習を生かしながらの進行で、大変好評であった。式典後、1年生以外の児童も看板に注目しながら、植樹や整備した花壇に親しむ姿が見られた。SDGsに関連した環境への意識は、6年生の総合的な学習の時間と関連付け、11月の学習発表会での報告による学びの深化があった。



高所作業車を使用し枝の剪定作業



式典にて児童の代表者がギボウシやアナベルの苗を植栽



看板を設置。除幕式の様子



児童・教職員など約60人が参加

実績とりまとめ

作業内容

伐採本数：8本
 剪定本数：14本
 古土剥がし面積：40㎡
 イベント：1回

参加者数

学内：60人
 学外：15人
 計：75人

樹種

アジサイ（アナベル）

環境教育フィールドの整備(ビオトープ等)

北海道札幌市立白楊小学校



事業概要

学習や休み時間に児童が気軽に自然とふれあえる環境づくりの一環として、ビオトープの整備を行った。整備が十分でなかった池の埋め立てや、きれいな道の整備、過密に生えていた植物の整理などを実施し、児童が安全かつ楽しく過ごせる生物空間を整えた。

事業成果

ビオトープがきれいに整備されたことで、気軽に自然に親しめるようになり、学習で学んだことを思い出しながら、休み時間に訪れる子が増えた。また、生き物や植物などの観察がしやすくなった。総合的な学習の時間などで、環境問題などにつなげ、募金活動の意味を考えるきっかけとなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちが環境問題について考えるよいきっかけになった。
- ・子どもの学習活動に関係付けて、環境についても学ぶ活動になると、さらによいと感じた。
- ・地域と連携して事業を申し込むことができたならよかった。(コミュニティ・スクール)

参加者の声

- ・きれいなビオトープで活動ができて楽しかった。
- ・プレイタイムにたくさん行きたい。
- ・どんな生き物がいるか、探したい。(児童)
- ・きれいに整備されたので、多くの児童が有意義な場所として活動することができている。(教職員)



式典の開会(式典は体育館で実施、その後ビオトープの完成式典を校庭で実施)



児童会長から助成いただいたことに対する感謝状をローソンの店長へ贈呈



モニュメント周辺にプランター6基設置



ビオトープ整備。流れに石を堆積・転圧

実績とりまとめ

作業内容

池清掃
流れの石を堆積
流れに客土転圧
既存樹木~4.0m程度の剪定
プランター6基
(宿根草植込5ポット)

参加者数

計 : 約470人

学校環境緑化モデル事業(「緑の募金」事業)

北海道札幌市立和光小学校



事業概要

本校は、平成16年にビオトープを保護者のご協力のもとに造られ、学習などに利用してきた。その付近の整備を行うことで、児童がさらに自然に関心を持ち、子どもたち同士で憩いの場になるような空間にしたいと思い、ロックガーデンを作った。また、理科や生活科で使用するヤマグワやミズナラ、読み聞かせサークル名にちなんだ「リンゴの木」を植樹することで、自然に対する興味・関心につながると考えた。

事業成果

令和6年度は本校開校60周年にあたるため、「60周年おめでとうの会」の中で本事業の式典を行った。会には全校児童と教職員、そして、土曜参観に参加した保護者も各教室でリモートにより式典の様子を観覧した。式典の中では、ローソンや緑と森の会の方々により、この緑の基金の趣旨説

明を行ったことで、一定の理解を得ることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・本事業については、学校側からPTA事務局会に説明し、次に春のPTAの常任委員会において保護者に周知し、趣旨をご理解いただいた。当日の式典をリモートで参加いただいた保護者からは「たいへんすばらしい取り組みであった」という感想をいただいた。また、式典終了後も、ロックガーデンに来て、保護者と児童で記念撮影をしたり、歓談している姿を多数見ることができた。

参加者の声

- ・植樹に参加した児童や児童会長は、植樹した木々がこれからも大切に育ってほしいという感想であった。式典終了後も、休み時間になると、ロックガーデンで虫を捕ったり、自然にふれあう児童の姿が見られた。



ロックガーデンの作業風景



式典の様子



児童・教職員などが参加



リンゴを記念植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：150㎡
植付本数：6本
下刈面積：200㎡
除伐面積：200㎡
イベント：1回

参加者数

学内：404人
学外：416人
計：820人

樹種

ヤマグワ、ミズナラ、リンゴ、クロフネツツジ、ヤマモミジほか

明和小学校勇者たちの緑化事業

北海道帯広市立明和小学校



事業概要

本校では、校地内及び周辺環境のさらなる向上を図るとともに、生徒が日常とは異なる視点から自然に触れることで、自然環境への意識と関心を高めることを目的として、校地内の樹木の剪定・伐採及び植樹を実施した。具体的な活動内容は、樹木28本の剪定、24本の伐採、苗木10本の植樹を実施。剪定及び伐採で発生した枝をウッドチップに加工し、植樹時に児童全員で散布を行った。

事業成果

学校内の緑化環境が大幅に改善された。シラカバやバンクスマツなどの枝を剪定し、健全な樹木の成長を促進した。また、老朽化により安全面に課題のあった樹木を伐採し、リスクを軽減した。新たにサクラやキレンゲツツジなどを植樹し、景観と生態系の多様性が向上した。これにより、安全性を強化するとともに、快適で魅力的な緑化環境を実現し、地域の緑化推進にも寄与している。

事業をよく知る関係者の声

- ・計画段階において、児童生徒や保護者、近隣住民との意見交換を行い、樹木の剪定や伐採が周囲に与える影響について周知するとともに、意見の収集を行うことで、より良い環境整備につながった可能性がある。また、伐採した樹木の本数に対して植樹本数が少なく、結果として緑化面積が減少している。今後の計画においては、伐採と植樹のバランスについても検討が必要である。

参加者の声

- ・植物のことを知れるきっかけとなってよかった。
- ・学校の木々がきれいに整って気持ちが良い。
- ・ウッドチップ散布が楽しかった。
- ・自分で木を植えるという貴重な体験ができた。(児童)
- ・児童が緑を身近な存在として感じるきっかけとなった。(教職員)



老齢化したナナカマドを伐採



完成式典で児童が本事業について説明を受けている様子



苗木を校長・来賓・贈呈者・児童代表4名により記念植樹



児童・教職員など約50人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：103㎡
植付本数：10本

参加者数

学内：47人
学外：10人
計：57人

樹種

カンザンザクラ、コデマリ、
キレンゲツツジ

東川第三小学校「三っ子の森」整備事業

北海道東川町立東川第三小学校



事業概要

身近な自然環境に触れることで、児童の環境への興味・関心を高め、豊かな感受性をはぐくむことをねらいとして、校地内にある雑木林の整備（低木の伐採・剪定・枝払いなど）を実施した。整備後の森の名称は児童から募集し、「三っ子の森」と命名した。完成を記念して式典を開催し、道道1160号沿いにはエゾヤマザクラを植樹した。来春には、校歌の歌詞にも登場するスズランの植栽を予定している。

事業成果

事業前は、うっそうとした森で、一部の学習活動でしか活用されず、森に近づくことは疎らだった。事業実施後は、雪に閉ざされるまでの間、明るく日差しが入る森に足を運び、晩秋の森の空気や木々に触れる児童の姿が見られた。来春以降はスズランを植栽し、より自然に親しみやすい環境を整備する。自然を愛し大切にしようとする心をはぐくむとともに、自他を愛し、大切にしようとする心へとつなげる。

事業をよく知る関係者の声

- ・本校の児童は、周囲に雄大な自然を抱えているにもかかわらず、自然とふれあう時間がほとんどない。さらに、昨今では、クマやエゾシカ等の野生動物の脅威が増し、周囲の森に触れ、味わうことも難しい。そのような状況で「三っ子の森」が完成したことは大変喜ばしいことであり、子どもたちが安全かつ意欲的に今後も自然に親しんでほしいと願っている。

参加者の声

- ・明るくてすてきな森「三っ子の森」ができ、うれしい。これからたくさん森で遊びたい。三っ子の森も東川の豊かな自然も大切にしていきたい。(児童)
- ・安全に子どもたちが自然を体感できる場所があることは親にとってもうれしい。自然のよさをたくさん感じて、豊かな自然を大切にしようとする心や守り続けようとする心を育てていきたい。(保護者)



業者による支障木の伐採・枝払い作業の様子



記念式典の様子



事業看板の両側に、児童代表が2本の木を記念植樹



児童・教職員など約50人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：8㎡
 植付本数：2本
 下刈面積：16㎡
 除伐面積：108㎡
 イベント：1回

参加者数

学内：35人
 学外：13人
 計：48人

樹種

エゾヤマザクラ

名川小学校開校記念「にじいろパーク整備事業」

青森県南部町立名川小学校



事業概要

令和5年4月の開校を記念し、子どもたちが利用する広場に植樹を行い、憩いの場として整備した。また、枯損している樹木や手入れが十分でない植栽についても整備し、美しく安全で快適な環境となるよう整えた。

事業成果

全校児童が集まって植樹の式典を行うことにより、自分たちの木であるという意識を高めることができた。また、広場に自分たちで名前をつけることにより、より大切にしていこうという気持ちが生まれた。今後、木が成長するにつれて、木に対してだけでなく、学校に対しても、より愛着を感じるようになって期待している。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちに自然の多い環境をつくるのも大人の役目だと思う。地球温暖化などの問題を考える上でも、緑の大切さを一緒に考え、一緒に育てていきたい。今回の植樹などは緑の大切さを考える上で良い機会になった。記念の木として大切にしていってほしい。

参加者の声

- ・いつになったらサクラが咲いたりドングリがなったりするのか、今からすごく楽しみだ。
- ・植樹の日をととても楽しみにしていた。これから、サクラやドングリと楽しく過ごしていきたい。
- ・木が大きくなるのを楽しみにして、にじいろパークという名前と一緒に宝物にしてほしい。



校庭内の緑化木の剪定作業の様子



完成式典の様子



記念植樹の様子



児童・教職員など272人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：150㎡
植付本数：5本
下刈面積：72㎡
除伐面積：405㎡
イベント：1回

参加者数

学内：267人
学外：5人
計：272人

樹種

ミズナラ、オオヤマザクラ

学校環境緑化モデル事業(青森県の木青森ヒバ林整備事業)

青森県青森市立沖館中学校



事業概要

学校敷地内を緑化整備し、学校生活の中で緑にふれあうことで自然や環境に対する思いやりや優しさをはぐくむことを目的とする。また、文化祭と合わせて植樹祭を実施し、生徒や保護者、地域の方々に対して、森林インストラクターによる樹木に関する講話を通じて、樹木や緑地の重要性及び環境の大切さを広く再認識してもらう。

事業成果

学校敷地内の樹木や緑地が整備されることによって、学校が憩いの場として、地域の方々が足を運ぶことが増えるとともに、学校の機能として、地域のコミュニケーションを図る場として重要性が高まった。また、講話を通じて、樹木の特性や樹木・緑地が自分たちの生活に欠かすことのできない大切な資源であることを理解するとともに、学校への愛校心を深め、次の世代へと伝統をつなぐことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・これまで校地に植えられていた樹木の生育状態を再確認することで、枯れ木や虫食いなどの被害を受けている樹木を伐採することができ、緑地を整備することができた。
- ・植樹した樹木や緑地に生育している樹木の管理や整備にかかる費用や作業について、今後も継続して対応していくことが課題である。

参加者の声

- ・講話を通じて、青森ヒバの生命力の強さを知るとともに、樹木の成長を楽しみにしている。
- ・樹木の成長を楽しみに見守ることができる。
- ・私たちが卒業しても、植樹した青森ヒバの成長を後輩につないでいくことができる。
- ・地域の憩いの場として、緑地や樹木の成長を見守ることを楽しみにしている。



(公社) 青森県緑化推進委員会専務による事業説明



森林インストラクターによる講話



記念植樹をした生徒5名の記念撮影



校地に植樹された青森ヒバ3本と看板

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：3本
伐採本数：9本
剪定本数：20本
イベント：1回

参加者数

学内：452人
学外：50人
計：502人

樹種

青森ヒバ

不動小学校 不動っ子の森 整備事業

岩手県矢巾町立不動小学校



事業概要

令和5年に創立150周年を迎えた不動小学校の校内には、記念樹である三本松をはじめ、多くの樹木が生育している。しかし、長い年月の経過により、腐食が始まったり、道路へ枝がはみ出したりするものもあり、整備の必要がある。このため、腐食したサクラを伐採し、新たなサクラを植樹することとした。

事業成果

成長しすぎた古いサクラを伐採したことで、校庭の環境整備が進み、児童の安全確保につなげることができた。また、令和6年10月に開催された「第14回いわての森林の感謝祭」に向けて、スクールステイで植樹用の苗木の世話にも取り組むことができ、今回の植樹活動を通して、児童の環境教育への興味・関心を一層高めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・今回不動小学校でサクラの伐採と植樹を行ったが、町内の各学校の樹木は、植えられてから相当の年数が経過しているものが多く、手入れが難しいほど成長しているものや、道路にはみ出しているもの、腐食しているものも多い。今後も継続的な環境整備を行うことが大切であり、それが学校のサクラ並木などの美しい景観を守ることにもつながると思う。(園芸業者)

参加者の声

- ・サクラが大きく育ち、きれいな花が咲くのが待ち遠しい。後輩たちにも受け継ぎ、立派な木になることを願っている。(児童)
- ・私たちが植えた苗木がたくさんの人たちに支えられて、大きく育つことを願っている。サクラの花が満開になるのが楽しみだ。(児童)
- ・サクラが大きく育ちきれいな花を咲かせる頃、またここに集まり思い出を語りたい。(教職員)



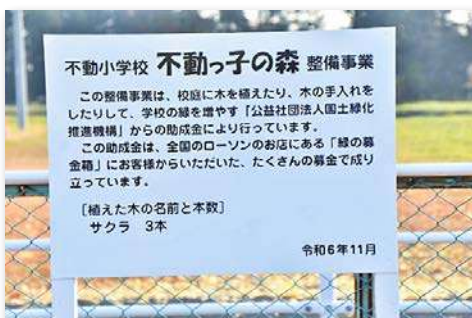
完成式典の様子



サクラを記念植樹



児童・教職員など39人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
 植付本数：3本
 伐採本数：2本
 イベント：1回

参加者数
 学内：30人
 学外：9人
 計：39人

樹種
 サクラ

花輪小学校 創立150周年 記念植樹事業

岩手県宮古市立花輪小学校



事業概要

令和6年度は本校創立150周年に当たる記念の年であることから、本事業を計画し、シダレザクラの記念植樹を実施した。また、例年、地域から譲り受けた苗を校舎前の花壇に植えて美化に努めているが、経年により花壇の一部で土壌の流出が見られたため、補修を行った。併せて、しばらく実施できていなかった樹木の剪定も実施し、校地の緑化環境を整備した。

事業成果

記念植樹では、シダレザクラの植樹と150周年の文言を入れた看板を設置した。児童もお祝いの気持ちで、式典に参加した。PTAや地域の方も参加しており、今後、地域全体で、サクラの成長を見守りながら、学校のシンボルとして大切にしてくれることを期待している。また、花壇の整備や樹木の剪定により、児童も気持ちよく登校や活動ができるのではないかと感じている。

事業をよく知る関係者の声

- ・自分も以前、緑の羽根運動に参加したことがある。今回、花輪小学校の記念植樹(式典)に参加したが、児童、教職員、PTAがみんなで温かい目で、樹を植える様子を眺めていたことが印象的だった。150周年という節目の年に、このような事業に取り組めたことをうれしく思う。よい式典だった。(花輪小学校150周年実行委員会委員長)

参加者の声

- ・これから、花輪小学校の校庭には、毎年シダレザクラが咲き誇る。このサクラは、150周年の記念のサクラでもあるが、児童の成長を見守るサクラでもある。児童みんなで大切にしていってほしい。(PTA)
- ・天候にも恵まれ、気持ち良く植樹ができた。児童のみなさんには、毎日サクラの成長を見守っていただきたい。私たちPTAや地域の方々も運動会などの行事のたびに、サクラを眺めることを楽しみにしている。(PTA)



整備された花壇



代表者で植樹作業



記念植樹の看板を設置



シダレザクラを囲んで記念撮影

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4㎡
 植付本数：1本
 剪定本数：2本
 花壇整備：25㎡
 イベント：1回

参加者数

学内：165人
 学外：2人
 計：167人

樹種

シダレザクラ

城南小学校校地周辺整備事業

岩手県盛岡市立城南小学校



事業概要

本校には校地を囲むように多様な樹木があり、児童が季節の変化を感じながら過ごすことができるとともに、地域の憩いの場にもなっている。今回、これら校地周辺の樹木について剪定や整備を行い、児童や地域の方々が安全・安心に過ごせる環境を整えた。また、新たに樹木を植樹し、今後も児童が豊かな自然を感じながら生活でき、地域からも愛される環境づくりを図った。

事業成果

倒木の危険があった校庭南側のエンジュの木を伐採したことにより、校庭のどの場所でも児童が安心して遊ぶことができるようになった。また、校地内で児童が登下校に通行する場所にあるサクラの木の剪定を行い、枝の落下の危

険がなくなった。エンジュの木があった場所には、1年生と6年生でロウバイを植樹した。児童は、新たな植物との出合いを喜び、その成長を楽しみにしている。

事業をよく知る関係者の声

- ・緑あふれる城南小学校の校庭が整備され、環境が整えられたことは、大変良いことだと思う。
- ・昨年度130周年を迎え、今年、新しいスタートに整備や植樹を行ったことは、大変喜ばしい。

参加者の声

- ・城南小学校に新しくロウバイという木が増えて、うれしい。これから、育っていくのが楽しみ。(児童)
- ・6年生と一緒に木を植えて、うれしかった。(児童)



完成式典の様子



1年生と6年生が記念植樹



児童・教職員など112人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：5㎡
植付本数：5本
除伐面積：125㎡

参加者数

学内：112人
計：112人

樹種

ロウバイ

南三陸町立名足小学校「名足っ子庭園」緑化事業

宮城県南三陸町立名足小学校



事業概要

植えられていた樹木が鬱蒼と生い茂っていたため、生活科や理科の学習で安心して利活用できるよう、「名足っ子庭園」の整備を実施した。また、伐採した樹木とは別の場所に、四季の移ろいを感じられるよう、植樹を行った。

事業成果

日陰が多くじめじめしていた庭園に光が差し、雰囲気明るくなったことで、児童が足繁く通う様子が見られるようになった。季節ごとにどのような花が咲くかを楽しみにしている様子もある。また、もともと花壇の水やりや除草作業に熱心に取り組んでいた児童だが、より一層自然を大切にしようとする言動が多く見られる。

事業をよく知る関係者の声

- ・津波の被害もあった庭園は樹木が伸び放題だったため、維持管理が課題だった。この機会にすっきり整備することができた。(渉外担当 事業推進学校担当)
- ・光が差すようになって見通しが良くなり、観察や採集などの活動を安全に行うことができる。(学校緑化担当職員)

参加者の声

- ・今回の事業で課題だった庭園を整備することができ、大変ありがたい。今後も維持管理を頑張っていきたい。(PTA関係者)
- ・これまで以上に美しくなった庭園で、きれいな和歌をつくりたい。植樹した木の生長の様子を見守っていきたい。(児童代表)



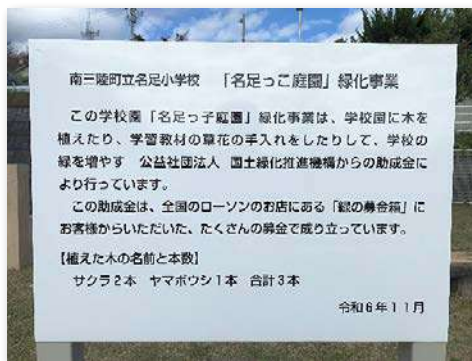
完成式典の様子



サクラ、ヤマボウシを記念植樹



参加者で記念写真



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：3㎡
植付本数：3本
イベント：1回

参加者数

学内：70人
学外：7人
計：77人

樹種

サクラ、ヤマボウシ

岡田小学校 ハマヒルガオの森

宮城県仙台市立岡田小学校



事業概要

岡田小学校では、東日本大震災の大津波で奇跡的に残った海浜植物の保護活動「ハマヒルガオプロジェクト」に取り組んでいる。毎年海辺の海浜植物の種を集め、学校で苗になるまで育て、海辺に移植している。移植した後は、海辺に行かないと、海浜植物の様子が観察できなかったが、移植しない分の海浜植物を、学校でも育てて観察したいという児童の願いがあり、この海浜植物専用花壇を設置した。

事業成果

仙台防災未来フォーラム2025で、児童が「岡田小学校の海浜植物専用花壇の設置」を発表した。今後は観察がより身近にでき、次年度は今まで以上に海浜植物の生態について詳しく発表できるであろう。また、身近に観察したり、世話をしたりすることで、自分たちが取り組む「ハマヒルガオプロジェクト」に誇りと愛着を持ち、様々な場面で発信していこうという意欲が高まると期待される。

事業をよく知る関係者の声

- ・海浜植物の花壇設置により、震災以降、岡田小児童や地域住民が大切にしている「ハマヒルガオプロジェクト」が、一層意義づけられ、大切に受け継がれていくだろう。(学校運営協議会委員)
- ・震災を風化させることなく後世に伝えていくシンボルになる。花壇設置はととてもすばらしい取り組みである。(町内会長)

参加者の声

- ・海浜植物の花壇設置により、プロジェクトを続けていきたいという気持ちが強まった。(6年児童)
- ・もっと地域の海岸に花を増やして、人がたくさん集まるような明るい海岸にしたい。(6年児童)
- ・海浜植物の花壇が設置されたので、もっと多くの人に海浜植物のことを知ってもらいたい(6年児童)
- ・海浜植物を1年中観察でき、とてもうれしい。(6年児童)



校舎東側のフィールドに設置された海浜植物用花壇



花壇完成セレモニー



花壇に海辺の砂を入れる



花壇完成セレモニー参加者集合写真

実績とりまとめ

作業内容

花壇面積：16㎡
深さ：40cm
海砂運搬：6.4㎡
イベント：1回

参加者数

学内：28人
学外：19人
計：47人

鳴子小・中学校統合に向けた環境整備及び開校記念植樹

宮城県大崎市立鳴子小中学校



事業概要

令和7年度4月に、4校が統合した鳴子小中学校の開校を記念して、新たに制定した校木「イチイ」を植樹した。また、学級花壇や校地内の樹木の剪定及び整備を行った。緑に囲まれた環境の中で、児童生徒の健やかな成長を願い、関係機関や地域が一体となった緑化活動を推進した。

事業成果

環境緑化モデル事業完成式典を開校式に合わせて実施したことにより、校木制定の理由や地域、関係機関の方々の思いを知ることは児童生徒にとって貴重な機会となった。また、校木の成長や季節を感じさせる色とりどりの花壇の花々を目にすることによって、児童生徒が自然を守り、地域への誇りと愛着を持ち続けていくことに期待したい。

事業をよく知る関係者の声

- ・開校式後に記念式典を実施し、モデル事業の趣旨説明や記念植樹を実施したことにより、児童生徒、保護者、関係機関等地域の方々に広く発信できたことは大変有意義であった。(PTA会長)
- ・新たに制定した校木「イチイ」を各校の代表児童生徒が植樹した。児童生徒の成長とともに緑や郷土を愛する心情が育まれることを期待している。(学校評議員)

参加者の声

- ・統合した4校の代表が一本ずつ植樹できたことは記念になった。これから大事に育てたい。(9年生徒)
- ・校木に込められた願い(一位になる)を大事にして、これからみんなと仲良く頑張っていきたい。(6年児童)
- ・新しい学校のスタートに合わせて記念植樹できたことはとても意義深い。校木の成長とともに、子どもたちの成長も見守っていきたい。(保護者)



開校式後の完成式典



校木のイチイを記念植樹



記念植樹後の記念撮影



看板とイチイの木

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：40㎡
 植付本数：4本
 剪定面積：100㎡
 除伐面積：100㎡
 イベント1回

参加者数

学内：250人
 学外：80人
 計：330人

樹種

イチイ

緑の通学路 ポプラ並木

秋田県秋田市立秋田北中学校



事業概要

本事業に取り組むことで、ふるさと秋田や地域の自然を守るためにできることを考える機会として、植樹(ソメイヨシノ1本、ポプラ3本)や樹木の剪定(サクラ2本)、抜き切り(マツ1本)などの活動を実施した。

事業成果

本校はこれまで、11年間にわたり学校近隣の防風林(すなもりん)を保護するために、落ち葉かきや枯れ木の伐採などに取り組んでおり、生徒は地域の自然を守り、大切にしようとする気持ちが醸成されている。今回の活動では、毎日、登下校している通学路(ポプラ坂)への植樹活動や樹木を守り・育てるために必要な取り組みを聞くことで、自然

と地域を愛護する心情がより深まったと捉えている。

事業をよく知る関係者の声

今回、樹木を植えることの大切さを体験できたことで、今後の森林環境学習などへのきっかけとなってほしい。

参加者の声

- ・「すなもりんクリーンアップ」で、枯れているマツを伐ったことはあったが、生きている木を守るために、病気になっている枝を切り落とす必要があることを初めて知った。
- ・サクラの植樹を行った。来年の春に花が咲くことが楽しみだ。卒業してからも、ずっと木が元気に育ってくれるとうれしい。



記念式典



サクラの枝を剪定



ソメイヨシノを記念植樹



生徒・教職員など73人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：3本
剪定本数：2本
伐採本数：1本
イベント：1回

参加者数

学内：63人
学外：10人
計：73人

樹種

ソメイヨシノ、ポプラ

緑化を通して、豊かな人間性の根をはぐくむ環境づくり

秋田県大仙市立太田中学校



事業概要

環境保全の意識向上と地域の自然環境への関心を高めるため、ナツツバキ1本・イロハモミジ1本・サルスベリ1本の植樹を行った。そのほか、通学路上にあるケヤキの整枝作業や学校花壇に水やりをするための水道の増設等、学校環境の緑化につながる取り組みを実施した。

事業成果

今回の取り組みにより、校地内の自然環境を保全する意識と、豊かな自然に恵まれた地域への愛着を高める機会が得られた。身近な校庭に植樹したこと、花壇へ水やりするための水道設備を増設したことで、樹木や花への愛着が増し、樹木や花を大切に育てる意識が醸成された。

事業をよく知る関係者の声

太田中学校は、学校の花壇においては歴史と伝統があり、他校より学校緑化において関心の高い学校であると感じている。今回の事業で、学校の環境緑化や花壇の花木についての意識がさらに高まっていくものと思われる。

参加者の声

- ・今回の事業を行ったことや式典の話聞いたことで、学校緑化についてさらに関心が高まった。自分たちの学校の環境に誇りをもってこれからの活動に励んでいこうと思った。
- ・通学路上のケヤキの枝がスッキリした。また、花の水やりの蛇口が増えたので、花壇の水やりが短時間でできるようになった。



ナツツバキ、イロハモミジ、サルスベリを記念植樹



通学路のケヤキ整枝作業後



児童・教職員など124人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：3本
 整枝本数：10本
 水道工事：3か所

参加者数

学内：120人
 学外：4人
 計：124人

樹種

ナツツバキ、イロハモミジ、サルスベリ

キラキラランド緑化再整備事業

山形県山形市立西山形小学校



事業概要

本校の植物観察園「キラキラランド」は、20年前にPTAの手づくりで整備され、以来、児童の学習やPTAの行事などで頻りに活用してきた。そこで今回、今後も児童や地域住民が安全に活用できるよう、橋の架け替えや不要木の伐採、学校のシンボルツリーの植樹などを行い、再整備した。

事業成果

今回の整備により、橋の架け替えによって水路に落ちる心配がなくなり、子どもたちが自由に活動できるようになった。また、樹木の枝を払い、下草を刈って整地したことで観察園自体がすっきりし、子どもたちが怖がらず活動できるようになった。このように、様々な危険箇所が改善され、安全な場所となったことで、児童だけでなく地域住民も安心して活動できる場所となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・20年前、PTAの企画立案で、手づくりで整備した「キラキラランド」が、きれいに整備され、再び子どもたちと歴代PTAの皆様にとって、大切な場所として再生されてよかった。木々が生い茂り、橋が劣化していたので再整備で当分の間は安全に使える。ただ、草刈りや枝払いなどは定期的に行う必要があるので、学校と地域で力を合わせて維持していきたい。

参加者の声

- ・少し怖い感じがしたキラキラランドがきれいになった。来年もホタルを見るのが楽しみ。(児童)
- ・当時のPTA会員としては、手づくりした水路や橋がきれいにつくり替えられ、これからも子どもたちの学習の場として役立つことがうれしく、誇りに思う。(地域関係者)
- ・子どもと共にいつでも行ける自然があることが大変良い。(保護者)



橋の架け替え作業



キラキラランド緑化再整備記念



ゲッケイジュを記念植樹



キラキラランド緑化再整備事業看板

実績とりまとめ

作業内容

整備面積：3,593㎡
 植付面積：65㎡
 植付本数：5本
 下刈面積：2,167㎡
 イベント：1回

参加者数

学内：62人
 学外：13人
 計：75人

樹種

ゲッケイジュ、リュウキュウツツジ、オオムラサキツツジ

蔵王めぐみこども園どんぐりの木植樹事業

山形県 学校法人 蔵王きぼう学園 蔵王めぐみこども園



事業概要

当園の保育では、自然との関わりを積極的に取り入れており、当園の園庭もその関わりの一つの要素となっている。今回、どんぐりの木などの木陰により快適な戸外環境をつくり出すとともに、植物を更に植樹することで、子どもたちの季節の変化への理解をより深いものにできるようになる。

事業成果

本事業の一環である式典や樹木板の作成などを通じて、子どもたちにおいて木を植える活動、木を守っていくことの大切さを考えるきっかけとなった。また、地域のローソンがその活動の支援を行っているを知ることでもでき、本事業を通じて地域への愛着心にもつなげることができた。

業を通じて地域への愛着心にもつなげることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・この園は里山での活動や魅力的な園庭での遊びなど、積極的に自然と関わる機会を提供している。園庭の樹木が増え、子どもたちが自然と接する機会が増加すると思われる、子どものより良い成長につながると思う。(職員)

参加者の声

- ・樹木板の制作が楽しかった。(園児)
- ・園庭での写真撮影も楽しかった。(園児)
- ・好天の中での式典となり、子どもたちも良い雰囲気の中で式典に参加でき、それが良い経験となった。(職員)



園庭に植えたブナ



完成式典の様子



看板を設置



園児・教職員など約30人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：50㎡

植付本数：5本

イベント：1回

参加者数

計：約30人

樹種

プラタナス、アメリカフウ、
ネムノキ、ブナ、ナラ

中庭環境整備事業

山形県東根市立東根小学校



事業概要

令和6年(2024年)は、本校の創立150周年にあたる記念の年である。その記念の年をお祝いする事業の一つとして、本事業を行った。中庭の環境を整備することで、子どもたちが、植物や生物等の自然にこれまで以上に親しむことができるように、池の清掃・整備と記念植樹、整地等を行った。

事業成果

本事業の実施により、子どもたちの中庭に対する興味・関心が非常に高まった。池の清掃・整備が終わると、透き通った水の中で生き物に触れたり、興味深く観察したりする姿が見られた。また植樹の際には、これからの学校の未来や自分たちの成長に思いを馳せながら、丁寧に植樹する姿が印象的だった。こうした活動を通して、中庭に対する興味・関心が高まり、学校への愛着にもつながった。

事業をよく知る関係者の声

- ・事業を進める上で、関係機関との打ち合わせや工期の日程調整などは大変であったが、それ以上の成果を得ることができた。これまで手付かずだった中庭にも子どもたちが足を運ぶようになり、池の生き物や木々を觀賞したり、自然の中で友だちと交流したりする姿が見られるようになった。

参加者の声

- ・学校の代表として記念の植樹をやらせてもらい、ほくたちの組はモクレンとハナミズキを植えた。学校の大切な役割を任されたので緊張したが、楽しく活動することができた。また、「この木が元気に育ってほしい」という思いを込めて丁寧に植えた。これからも、何十年、何百年もこの木たちが、大ケヤキのように大きくなり、愛されてほしい。(記念式典での代表児童の言葉より一部抜粋)



記念植樹の様子



整備された池



記念式典の様子

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：6㎡

植付本数：6本

イベント：2回

参加者数

学内：95人

学外：6人

計：101人

樹種

アジサイ、キンモクセイ、ハナミズキ、イロハモミジ、モクレン

伊達市立掛田小学校「希望の森」事業

福島県伊達市立掛田小学校



事業概要

本校の中庭は、草木や樹木が生い茂り、ここ最近では、児童が立ち寄ることがなかった。そこで、中庭の植栽の環境を整備し、児童が樹木の観察や生長を楽しむことで、児童の心にゆとりや安心感をもたらす憩いの場となるような環境をつくり、環境教育の一層の推進を図る。

事業成果

中庭にて業者による樹木伐採や樹木剪定の作業が始まると、児童は廊下の窓から興味深く様子を見ていた。綺麗に整備された中庭を見て、「早く中庭で遊びたい。」「ベンチがあるといいな。」などの声が聞かれ、学校環境美化への関心が大いに高まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・数年前の中庭には、メダカが泳ぐ池を中心に、緑豊かな空間が広がっていた。美しい緑化環境を維持していくためには、伐採や剪定など、定期的に行う必要がある。PTA事業としての実施を検討すべきである。

参加者の声

- ・授業参観で来校したが、綺麗に整備された中庭を見て驚いた。(保護者)
- ・小学生の頃、中庭で卒業記念撮影をしたことを思い出した。(保護者)
- ・この綺麗な状態を保ってほしい。(保護者)
- ・中庭が綺麗になってとてもうれしかった。(児童)
- ・花も植えてみたい。(児童)



樹木伐採の様子



ヤマボウシを植樹



完成式典の様子



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2㎡
 植付本数：2本
 下刈面積：400㎡
 除伐面積：100㎡
 イベント：1回

参加者数

学内：67人
 学外：5人
 計：72人

樹種

ヤマボウシ

師恩桜長生きしてねプロジェクト

福島県二本松市立川崎小学校



事業概要

本校体育館南側には、樹齢100年を越える「師恩桜」があり、4月には美しい桜が咲いている。しかし、老木化も進んでいることから、学校のシンボルである師恩桜がこれからも長生きできるよう、専門家による手入れを実施した。

事業成果

専門家による手入れを行ったことで、師恩桜の長寿化に大きく寄与できたと考えている。また、事業完成式典や看板の設置を通して、児童の意識づけを図ることができるとともに、師恩桜が私たちと同じく“いのちある存在”であること、そして自分たちがこれまで生き続けてきた師恩桜を未来へ受け継ぐ存在であることを学ぶ契機となったと考える。

事業をよく知る関係者の声

- ・児童にとっては当たり前存在している師恩桜だが、よく見てみると老木化が進んでいることから、今回の事業によって専門家の手入れを行うことができたのは大変ありがたいことであった。しかし、樹木医による樹木の診断は1本当たりの費用が高額になるため、予算内で十分な対応ができるかについては、検討を要する場面もあった。

参加者の声

- ・師恩桜がこれからも元気で長生きしてほしい。
- ・自分たちも師恩桜を守っていきたい。
- ・春にきれいな桜が咲くのが楽しみ。



テングス病の除去



サクラの枝払い



完成式典の記念撮影



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
 整備面積：350㎡
 イベント：1回
 サクラの枝払い等

参加者数
 学内：103人
 学外：6人
 計：109人

樹種
 サクラ

学校環境緑化モデル事業(学校林整備)

栃木県真岡市立大内東小学校



事業概要

本事業では、本校の最大の特徴である学校林の整備を実施。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学校林は一時的に荒廃したが、現在は地域住民や保護者による下草刈り、児童による清掃活動を行っている。しかし、高所での枝打ちや間伐・除伐については、素人では危険が伴う上、環境を良好に保つためには専門的な知識が不可欠である。このため、施工業者へ依頼し、専門的な整備を実施した。

事業成果

学校林の整備により、児童が学校林の隅々までをフィールドとして捉えられるようになり、教育活動の幅が広がった。枯木が撤去されたことによって、安全性が増した。本校児童、保護者、地域の方々による下草刈りや清掃活動について具体的な見通しをもって計画的に進めることができるようになった。本校の特色を生かした教育活動を展開することにより、地域とともにある学校づくりを推進する。

事業をよく知る関係者の声

- 学校林は平成6年から続く長い歴史をもち、本校の特徴である。間伐や高所の枝打ち、枯木の撤去などの整備は危険を伴うため、専門業者への依頼が不可欠であった。本事業により学校林が良好に整備され、誠に喜ばしい。新たな活動を生み出し、教育効果の向上につながることを期待している。今後は持続可能な整備体制を確立し、この環境を維持していくことを望む。

参加者の声

- 私たちの学校の自慢でもある学校林がとてもきれいになり、本当にうれしい。木を伐ったことによって太陽の光が地面に注がれ、学校林の自然環境が豊かになるのがとても楽しみ。また、ツリークライミング等の学校林でしかできない活動を、みんなでやってみたい。そして、この整備された学校林を地域の皆さんと一緒に守っていきたいと思う。



学校林整備後の様子①



学校林整備後の様子②



学校林整備後の様子③



整備された学校林で校外授業

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.25ha
 植付本数：5本
 下刈面積：1ha
 除伐面積：1ha
 イベント：1回

参加者数

学内：85人
 学外：50人
 計：135人

樹種

トチノキ、ケヤキ、アスナロ
 ほか

学校環境緑化モデル事業(ソメイヨシノ剪定)

栃木県大田原市立須賀川小学校



事業概要

本校のサクラは、昭和29年の開校当初に植樹され、児童はもちろんのこと近隣の住民にも親しまれている。長年愛されてきたサクラだが、老木化・大木化し、枯れた枝が落ちてくる心配があった。さらに、本校の児童のみならず、近隣施設への被害が危ぶまれている。そのため、伐採せず今後もサクラとともに安心して学校生活を送ることができるよう、剪定を実施した。

事業成果

サクラの枝を剪定したことで、強風や大雨時の落枝や近隣施設への被害の心配がなくなり、安心して剪定前は、児童がサクラの下に入ることを禁止していた箇所もあったが、現在は安全に過ごすことができるようになり、児童が校庭を広く活用できるようになった。児童も近隣住民も、今後も長くサクラを楽しむことができることを大変喜んでいる。

事業をよく知る関係者の声

- ・須賀川小学校のサクラは、大木であるとともに老木化も進んでいたため、大規模な剪定が必要であった。当初は、校庭南側の大木4本のうち2本を剪定する予定であったが、他の2本にも弱った枝が見られたため、4本全てを剪定した。重機も投入され、大がかりな作業となった。しばらくは剪定の必要はないと思われるが、老木であるため今後も手入れが必要である。

参加者の声

- ・サクラの枝を伐っていただき、ありがたい。これからも安心してサクラの花見を楽しめる。
- ・サクラがすっきりし、校庭が今までより広く感じられる。春にサクラの花がきれいに咲くのが、とても楽しみ。
- ・この事業のおかげで、枝が落ちてくる心配がなくなって良かった。ありがたい。
- ・これからもサクラを大切に见守っていこうと思う。



検査の様子



完成式典の様子



児童・教職員など40人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

剪定本数：4本
イベント：1回

参加者数

学内：33人
学外：7人
計：40人

樹種

サクラ

学校環境緑化モデル事業(花壇の植樹と手入れ)

栃木県日光市立今市第二小学校



事業概要

当庭園は、児童が必ず目にする場所にあり、保護者・来校者が来校する時に通る場所である。学校緑化のシンボルの場とするために、本事業では、庭園南側の花壇の整備を実施した。

事業成果

児童が自ら植栽体験を行うことができ、学校緑化への意識が高まった。今後は、ブルーベリーを収穫したり、学習教材として活用したりすることもできる。また、旧庭園については、学校支援ボランティアの自主的な活動により、四季折々の花株を植え、整備してきた。今回の庭園改造により、株の移植や庭園の整備を協力して行うことができ、さらに、学校支援ボランティアとのつながりも深まった。

事業をよく知る関係者の声

・(公社)とちぎ環境・みどり推進機構のご協力のもと、本

事業を実施でき、大変ありがたい。

- ・学校の予算や市町村の補助金援助では、花苗や土の購入が限度であるため、本事業を実施することで大規模な緑化推進を行うことができる。
- ・ローソン募金が大きな貢献をしていることを完成花壇に大きく広告すると良いと思う。

参加者の声

- ・木々が整備され、きれいになって良かった。募金をしていただいたたくさんの方々に感謝の気持ちでいっぱい。(児童)
- ・きれいな庭園になることで、保護者や地域の方が興味をもち、話題になり良い雰囲気となる。(学校支援ボランティア)
- ・子どもたちが成長し保護者になった時、思い出をなつかしみ、次へつなげてほしい。(保護者)



記念植樹



花壇(庭園)完成



児童・教職員など31人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2.9ha
植付本数：11本
下刈面積：1.8ha
イベント：1回

参加者数

学内：24人
学外：7人
計：31人

樹種

ブルーベリー、ツツジ、ボタンほか

伊勢崎市立赤堀東小学校 ビオトープ 輝 緑化事業

群馬県伊勢崎市立赤堀東小学校



事業概要

ビオトープ周辺の樹木の生長が著しく進んでおり、人力のみでの剪定が困難になりつつある。樹木やその葉が周辺を過度に覆うことで、植物本来の生長に影響を及ぼすほか、ブラインドとなって、他の動物が近づきにくくなるおそれがある。そのため、視認性と日当たり、風通しを確保し、ビオトープ周辺の自然生態系を健全に保全するための整備を実施することとした。

事業成果

ビオトープ周辺の樹木の剪定を行ったことで、森の外側からの視認性が広がった。これにより森の外側から水源の視認が容易となり、より多くの動物(虫)が集まれるようになっていく。また、開花期の異なる樹木を植樹したことで、活動時期の異なる、より多様な動物(虫)による生態系を獲得し始めている。

事業をよく知る関係者の声

- ・以前は木々が生き茂り、うっそうとしていたが、森全体が明るくなった感じがする。高木の下にある低木にも日が当たるようになり、より健全な植物の生育が期待できるようになった。
- ・植樹により、より多くの種類の花を目にすることができるようになり、季節の移り変わりが、より感じやすくなった。児童の情操教育に効果があると考えている。

参加者の声

- ・ビオトープは僕が3年生の時から、総合の時間や休み時間に観察をしていた。カブトムシの幼虫やヤゴなど、いろいろな虫がいて、いつも楽しく過ごすことができていた。そんなビオトープを整備していただき、とてもうれしい。これからもきれいに整備して、もっといろいろな生き物を観察していきたい。(6年児童代表の作文より)



ミモザアカシアを記念植樹



ビオトープ(全景)



児童・教職員など約20人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植樹本数：10本
 剪定本数：6本
 イベント：1回
 木道修繕

参加者数

計：約20人

樹種

アジサイ、ミモザアカシア、
 ロウバイ、トキワマンサク

心安らく学校環境緑化教育の実践

埼玉県羽生市立羽生南小学校



事業概要

学校の敷地内の緑化環境を充実させるために本事業を行った。取り組み内容として、児童が授業で活用し楽しめる樹木を植えた。また、敷地内の樹木を専門業者に調べてもらい、倒れそうな樹木は伐採し、電線に引っかかっている樹木は剪定し、児童や地域の方々の安全確保に努めた。

事業成果

本事業を通して、児童の植物に関する興味関心が高まった。休み時間には植樹された樹木を見る児童がいたり、伐採された樹木の幹を見たりする児童もいる。また、校地内にある樹木の名前や植物の育て方を調べる児童も増えた。今後は学校生活や授業を通して、校地内の樹木等の植物にさらに目を向けて、豊かな心をはぐくむ一助となってほしい。

事業をよく知る関係者の声

- ・反省点として、長期的な視点での計画が立案できず、喫緊の課題の対処をすることしかできなかった。
- ・子どもの授業等の役に立つような木を植樹をする方に予算を使いたかった。
- ・今後の課題として、樹木の定期的な剪定や植樹した樹木の管理（水やり・剪定等）がある。

参加者の声

- ・この式典を通して、緑の募金がどのように学校や地域で活用されているのかが分かった。「これからも緑を大切にしていきたい」という代表の児童の言葉や子どもたちの歌声がとてもすばらしかった。このような取り組みが、他の学校にも広がっていくことを願っている。



シダレヤナギの伐採



校地北側の樹木の剪定



2本の植樹と看板の完成



完成式典での全校合唱の様子

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：2本
 剪定本数：37本
 伐採本数：1本
 イベント：1回

参加者数

学内：282人
 学外：8人
 計：290人

樹種

スダジイ、シラカシ

東大戸小学校 150 周年記念緑化事業(東大戸小学校みんなの樹事業)

千葉県香取市立東大戸小学校



事業概要

創立150周年に向けて、学校のシンボルとなる樹木の植樹と剪定、草花の植栽を行い、児童が学びやすい環境を整えることを目的として行った。植樹については、創立100周年の時にマツが3本植樹されたが、1本は台風の被害、もう1本はマツクイムシの被害を受け枯れてしまった。現在1本残っているマツの隣に千葉県の県木であるマキを植えた。

事業成果

令和7年度に控えている創立150周年記念式典に向けて、環境を整えることができた。特にカイヅカイブキは枝葉が育ちすぎていて周辺の道路や電線等に架かってしまっていたので、これを剪定することで、周辺への影響を止めることができた。

事業をよく知る関係者の声

・緑あふれる環境を保つのは大変難しいということである。今回、この事業のおかげでカイヅカイブキ16本の剪定を行うことができた。長年の懸案だったので良かったと思う。しかし、学校の周辺を見るとまだまだ多くの成長しすぎた樹木が存在する。これらを今後どのようにして整備していくかが課題である。

参加者の声

- ・みんなで草取りや花を植えることで、きれいな学校になっていくのがうれしかった。
- ・前はカイヅカイブキの木がじゃましていて遊べなかったけど、きれいに切ってくれたので広く遊べるようになった。
- ・創立150周年に向けて、みんなで学校をきれいにしていくことができて良かった。



マキを植樹



完成式典の様子



児童・教職員など150人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：10㎡
 植付本数：1本
 除伐面積：160㎡
 イベント：3回

参加者数

学内：90人
 学外：60人
 計：150人

樹種

カイヅカイブキ、マキ

流山市立西深井小学校 学校ビオトープ「西深井の森」再生事業

千葉県流山市立西深井小学校



事業概要

学校ビオトープ「西深井の森」が、造成から時間が経ち、施設の経年劣化を修繕したり、森の木を間引いたりする必要が生まれた。「西深井の森」が今後も学校林として貴重な生態系を保ち、児童が主体的に学習の場として持続的に活用できるように整備する。また、児童が主体的に森の整備に関わり、自然に親しむ心情を育めるようにする。地域の貴重な自然環境として、守り育てていく。

事業成果

自然の学習教材として、森の利用価値が高まった。整備や清掃、植栽活動を児童が行うことで、森を愛し、大切に守ろうとする心情を児童の中に育てることができた。活動中、多くの方の支援を受けることで、社会に森を守る活動があることを体験的に学ぶことができた。また、地域の保育園の児童等にも「西深井の森」を活用する動きや森の木々の下での合唱祭を行うことも計画している。

事業をよく知る関係者の声

- ・式典当日は、ビオスマイル委員会の皆さんから、ビオトープ再生のための活動発表があり、これまでの歩みがよく分かった。また、地域の方々、県緑化推進委員会のご協力のもとですばらしい環境が成り立っていることを実感。ビオトープの水が流れ込む柵の改修は、本事業の助成を受けて工事ができ、改めて感謝申し上げる。教育委員会として今後も支援していきたい。(流山市教育委員会指導主事)

参加者の声

- ・1年にわたる児童と先生の取り組みが形になり、児童は貴重な経験ができた。自然体験の活動を重ねるにつれて、目を輝かす児童の様子に自然がもたらす力を感じた。(PTA会長)
- ・自然が1週間も経たず変化していく様子を観察し、自然をよく知れた。また大切に思うようになった。(高学年ビオスマイル委員会児童)



休み時間に自然に親しむ子どもたち



ビオスマイル委員会自然観察



再生工事完了式典



ビオスマイル委員会発足集会

実績とりまとめ

作業内容

- ・植付面積：4㎡
- ・植付本数：4本
- ・除伐(間伐)面積：100㎡
- ・イベント：36回
- ・ビオスマイル集会
- ・工事開始集会
- ・工事完了式典
- ・清掃活動30回
- ・植栽活動
- ・田んぼづくり
- ・オタマジャクシ救出

参加者数

- ・学内：246人
- ・学外：23人
- 計：269人

樹種

グミ

学校環境緑化モデル事業(ビオトープの整備)

千葉県山武市立蓮沼小学校



事業概要

当校のビオトープは、周辺の樹木等が繁茂し、見通しが悪い状態となっている。このため、児童が安全に立ち入ることが困難であり、近年は活用できず、本来の機能を十分に果たしていない状況である。そこで本事業では、ビオトープを生活科等の学習に活用できる環境とすることを目的として、ビオトープの再生整備及び周辺樹木の整備等を一体的に実施する。

事業成果

樹木の伐採や池の修復を行うことで、児童が池を観察しやすい環境となった。児童も整備された環境を見ることで、池等で生き物等の観察ができるのを心待ちにしているようだ。春先には、児童の希望も聞きながら地域の植物や生き物を放していく予定である。来年度は、理科や生活科の新たな観察場所として活用していく。

事業をよく知る関係者の声

- ・かつては、観察池として活用されていた池が、今回復活して卒業生としても非常にうれしい。今後、授業等で有効活用して行ってほしい。また、池周辺の掃除などを児童の活動としてつなげて行ってほしい。この環境を学校だけで管理していくのは大変だと思うので、市とも連携をしながら進めて行ってほしい。(学校評議員)

参加者の声

- ・今回の事業で、環境が整備され、この池でいろいろな生き物等が育ち、観察できることや、きれいなサクラが咲くのが楽しみだ。
- ・今回の事業により、池周辺が整備されたことは非常にうれしい。今後、池の管理については不安な面があるが、蓮沼小のシンボルになるよう、環境を守っていきたい。



再生したビオトープ(全景)



サクラを記念植樹



完成式典で記念撮影



看板を設置(サンブスギを使用)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：25㎡
植付本数：1本
除伐面積：25㎡
イベント：1回

参加者数

学内：152人
学外：11人
計：163人

樹種

サクラ

布鎌小学校梅ウグイス事業

千葉県印旛郡栄町立布鎌小学校



事業概要

学校の正門に植えられたクスが成長し、校舎に接触、学校敷地から越境している状況であったため、枝の剪定を実施した。また、校庭には現在植栽されていない樹種であり、春の訪れをいち早く感じられることに加え、児童による実の活用が可能である、ウメを植樹した。

事業成果

枝の剪定を実施した結果、校舎周辺及び隣接地の環境改善が図られた。また、ウメを植樹したことにより緑化教育を推進し、今後の学習等へ活用していきたい。

事業をよく知る関係者の声

・今回、クスの枝剪定を実施できたが、校舎内には、他の高木も植えられており、枝剪定が必要な状態である。今後とも計画的に環境整備を進めていきたい。(教育委員会)

参加者の声

・学校入り口の木は大きすぎて職員で剪定するには限界があった。この事業を通して、環境の整備が進み、安全で見通しの良い入口になりうれしかった。また、春を告げる木が増えたことで、より緑の多い自慢の学校となった。緑の募金がこのように使われていることを知り、今後自分自身が募金をしようという気持ちになった。



枝剪定前

枝剪定後



ウメの記念植樹



全校児童・教職員など80人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
 剪定本数：7本
 イベント：1回

参加者数

学内：73人
 学外：7人
 計：80人

樹種

植付：ウメ
 剪定：クス

ビオトープ池環境整備

東京都町田市立小中一貫ゆくのき学園



事業概要

児童・生徒の環境保全を自分事と捉え、行動していく意識・姿勢を育成することを目的とし、学校ビオトープの調査及び整備を行う。内容は以下のとおり。①学校及び学校周辺の環境調査、課題発見、②学校ビオトープの整備等(植栽・除伐・井戸整備)、③生き物の住处づくり(巣箱、エコトーン等)。

事業成果

学校ビオトープの池周辺に植生シートを植栽し、ガマを間引くことで、多くの生物が住むことができる環境を整備することができた。また、子どもたちが主体的に取り組むことで、学校周辺の環境への興味・関心が高まり、自らの力で守っていこうとする意欲・姿勢が身に付いた。環境保全活動を学校として継続していくための基盤整備を行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・児童・生徒が自ら調査し、課題を発見し、課題を解決するために行動したことで、自分事と捉え環境保全意識が高まった。(教員)
- ・学校周辺の環境を意識して多くの生物を守るために行動することができるようになった。(講師)
- ・子どもたちが課題意識をもって行動することの大切さを感じることができる良い機会となった。(教員)
- ・楽しみながら活動する様子が見られた。(保護者)

参加者の声

- ・学校にタヌキやキイトンボがいることが分かった。
- ・ビオトープを整備するために、ガマを抜いたり、植生シートを貼ったりすることは大変だったけど、楽しかった。
- ・これからもみんなで学校周辺の環境を守っていきたい。
- ・緑が増えることでたくさんの生物が住むことができる環境をつくることができうれしかった。



池のガマを間引く



石を集めてエコトーンの岩場づくり



調査マップづくり



池の中を観察

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：20㎡
植付本数：4本
除草面積：10㎡
植生マット：15㎡

参加者数

学内：45人
学外：5人
計：50人

樹種

ヤマツバキ、マテバシイ

夢のふれあいガーデン Ver.2

神奈川県愛川町立中津第二小学校



事業概要

本校のガーデンが児童・家庭・地域にとって、より一層の憩いの場となり、開かれた学校づくりを推進するとともに、職員室や各教室の風通しや見通しの向上を図ることを目的とし、樹木剪定、池や花壇の整備、植樹、植栽を実施した。

事業成果

一部を造園会社に委託したことで、大木の剪定や池の整備など、自校のみでは実施が難しかった大規模な取り組みを行うことができた。大木の剪定により、教室や職員室に日差しが差し込み、校内全体が明るくなるとともに、学習環境や教職員の働く環境の改善につながった。また、ガーデンは植物や生き物を観察できる学習の場として活用されるようになり、休み時間や放課後には児童がゆったりと過ごせる憩いの場ともなっている。さらに、地域の保育園の

園児が散歩コースの一部として利用するようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・児童と家庭、地域とともにつくり上げることができた。今後、地域の方々の利用者を増やしていきたい。
- ・木々の成長が早いので、今後の維持が課題である。地域や保護者のボランティアを募り、定期的に手入れをしていく予定である。

参加者の声

- ・池の中のメダカが見られてうれしかった。(児童)
- ・花がたくさん咲いていて、きれいなガーデンになって驚いた。(児童)
- ・協力できてうれしかった。今後の管理・維持にも協力していきたい。(保護者)
- ・今よりさらに、地域の人でも利用できるように、ぜひ、働きかけてほしい。(地域)



剪定作業



代表児童で記念植樹



児童・関係者など約60人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：185㎡
植付本数：17本
下刈面積：450㎡
除伐面積：2㎡
イベント：3回

参加者数

学内：360人
学外：10人
計：370人

樹種

ハナミズキ、キリシマツツジ、サツキ、シャクナゲ、ミツバツツジ

校地内の緑化活動

神奈川県茅ヶ崎市立円蔵中学校



事業概要

本事業を活用し、正門脇にヤエザクラ1本を植樹し、80㎡の花壇を増設した。花壇については、植える苗を支援級の生徒たちと相談して決め、学校で購入し、職員と一緒に世話をしていく予定である。

事業成果

卒業式や入学式の記念撮影の場となる正門付近にサクラを植樹したことで、そこに咲くサクラは一生の思い出を彩る大きな役割を果たしてくれる。また、支援級の花壇では、年間を通して様々な苗木を育てており、季節を肌で感じる役割をしてくれている。花壇の増設により、生徒は熱心に手入れし、情操教育の一環となっている。

事業をよく知る関係者の声

- ・本事業に関わった生徒が大人になり、自身の成長と重ね合わせて、立派に成長したサクラを見に来てほしい。
- ・花壇については、大型連休や夏休みなどの長期休業中の手入れも含め、生徒と共に教職員が一緒になって花いっぱいにしていきたい。

参加者の声

- ・学校がきれいになるのはすごく良いこと。引き続き、環境整備にもエコ活動にも力を入れた教育をしたい。
- ・校庭に咲くサクラは特別。新入学の1年生だけでなく、進級する2、3年生にとっても、新たなるスタートを応援されている気持ちになる。そのサクラが、地域でよく知る企業(ローソン)の事業で、より一層地域とともにあることを実感した。



花壇の増設(植栽予定)



伐根作業



植栽前の状況



完成式典にてヤエザクラを記念植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1㎡
植付本数：1本
花壇面積：80㎡
イベント：1回

参加者数

学内：19人
学外：6人
計：25人

樹種

ヤエザクラ

「ふるさとの森」学校環境保全林の整備

神奈川県海老名市立今泉中学校



事業概要

「ふるさとの森」学校環境保全林の整備を通して、環境について考える良い機会となるとともに、自然と共に協働・共生する力をはぐくむことを目的とする。実施内容は、花壇整備、植栽（コスモス、キキョウ）、枝の剪定である。また、季節の花を植えたことで、生徒が自然の中で季節の移り変わりを感じることができたようである。

事業成果

季節の花であるコスモスやキキョウを植栽することで、植物の様子を通して季節の移り変わりや植物の魅力を感じ

取ることができる。また、樹木下の花壇に日光が差し込むようになり、生徒やPTAが活用できる環境が整った。

事業をよく知る関係者の声

- ・植栽する植物は適切に管理して大きさを保ち、季節ごとにふさわしい植物を植えることで、花や樹木の姿が際立ち、景観を楽しめる環境となった。(保護者)

参加者の声

- ・樹木の剪定を行ったことで、花壇の見通しが良くなった。樹木の緑色に花の色が加わり、彩り豊かになった正門を通ると、明るく清々しい気持ちになる。(生徒)



樹木の枝剪定後



花壇整備後（花壇にコスモスやキキョウを植栽）



完成式典の様子



花壇後ろのフェンスに看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

剪定本数：13本
 植栽株数：72株（コスモス、キキョウ）
 花壇整備：20㎡
 イベント：1回

参加者数

学内：40人
 学外：10人
 計：50人

樹種

剪定：タブノキ、シラカシ、アラカシ

五十嵐小学校中庭緑化事業

新潟県新潟市立五十嵐小学校



事業概要

大きく育ちすぎた中庭の樹木（ヒマラヤスギ）の影響で、教室に光が入ってこなかったり、カラスが営巣したりしていた。子どもたちにとってより良い学習環境を整えるため、ヒマラヤスギの剪定を行った。また、子どもたちの自然環境への意識を高めるため、ブナの植樹を行った。

事業成果

中庭のヒマラヤスギを剪定したことで、校舎に十分な日光が差し込むようになり、子どもたちは今まで以上に快適に学校生活を送ることができている。また、カラスの営巣もなくなることが予想され、安心して屋上で活動することができる。植樹したブナは、飼育栽培委員会の子どもたちを中心に、みんなの木という意識が芽生えてきている。

事業をよく知る関係者の声

- ・ヒマラヤスギには毎年のようにカラスが営巣していることもあり、五十嵐小学校の周りにはカラスが多い。カラスがごみをあさることもあり、地域としても困っていたので、長年懸念となっていたヒマラヤスギの剪定をしていただいたことは、大変ありがたい。植樹したブナの木々の成長を地域も共に見守っていきたい。

参加者の声

- ・学校環境緑化事業を通じて、未来を担う子どもたちと地域の方々が、森や緑の大切さを学び、さらに緑の育成に参加していただけることを期待している。ローソン、国土緑化推進機構、にいがた緑の百年物語緑化推進委員会には、この活動をさらに拡大し、多くの学校でモデル事業が実施できるようにしてもらえるとありがたい。



完成式典に児童・教職員・関係者など21人が参加



ブナを記念植樹（完成式典後日に実施）



植樹したブナの前で記念撮影



剪定したヒマラヤスギ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：3㎡
植付本数：3本
イベント：1回

参加者数

学内：13人
学外：8人
計：21人

樹種

ブナ

学校環境緑化モデル事業(環境教育フィールドの整備)

富山県黒部市立宇奈月小学校



事業概要

本校は平成18年3月の黒部市と宇奈月町の合併時に旧宇奈月町内の4校が統合して誕生した小学校であり、校地の緑化を通して、本校の教育目標である「思いやりの心とたくましい体を持ち、自ら実践する子どもの育成」を進める。本事業は、子どもが水辺の小動物の観察・飼育を安全に行えるように、橋の設置や藤棚の撤去等を行った。

事業成果

橋を設置したことにより、より水辺の動植物を観察しやすくなり、生活科や理科の学習がしやすくなった。また、藤棚を撤去することで、ビオトープ周辺に広場ができ、自然に親しみ、思いやりの心をはぐくむことができるようになった。

事業をよく知る関係者の声

・ビオトープは、とてもよい学習の場であると考えている。そのため、我々PTAが環境整備を毎年実施し、保護者で草刈り等をしている。しかし、橋が朽ちてなくなり、藤棚も倒壊の恐れがあり、安心して生き物を観察できる場所でなくなっており、残念に思っていた。このように整備されたことは、子どもたちのために、本当に良かったと思う。

参加者の声

・皆さまのおかげで、新しい橋が架かった。向こう岸にも渡れるようになり、虫や生き物の観察がしやすくなった。これからは、新しい橋を使って、たくさん遊んだり、勉強したりしたい。ミカンの苗木はまだ小さいが、宇奈月小学校のシンボルになるように、大切に育てていきたい。



ビオトープの整備(木橋設置)



ミカンの苗木を植樹



完成式典に花とみどりの少年団等が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：2本
藤棚の撤去
橋の設置

参加者数

学内：30人
学外：4人
計：34人

樹種

ミカン

学校環境緑化モデル事業(学校敷地内の緑化)

富山県黒部市立たかせ小学校



事業概要

本事業では、体育館横の土手の樹木の根元付近の整備や高木や中低木の伐採・剪定を実施した。また、森林教室を開催し、手入れした樹木へ樹名板の設置を行った。

事業成果

体育館横の土手の樹木の伐採、剪定をしたことにより、竜巻や突風、台風等の強風の影響で倒木する恐れが少なくなった。また、土手のたもとまで光が届く環境を取り戻すことができ、児童が木に親しんだり生物観察を楽しんだりする環境が整った。

事業をよく知る関係者の声

- ・田家小学校と東布施小学校が統合して創立10周年を迎えた節目の年で、土手が今後も児童や地域の方々にとって憩いの場として、安心して過ごせる空間に変わり、うれしく思う。また、土手周辺で過ごす児童の様子がよく見えるようになったことで、安全に過ごせるよう目が届きやすくなったのは良かった。

参加者の声

- ・木が整備された後、児童の緑化への意識を高めようと土手の木12本に木の名前を明記した看板が付けられた。名前が分かるようになり、木に親しみやすくなった。
- ・日陰として休んだり安全に虫探しも楽しんだりできそう。休み時間が待ち遠しい。



樹木の伐採、剪定（作業前）



樹木の伐採、剪定（作業後）



森林教室を開催し、樹名板を取り付け



完成式典に飼育栽培委員会6名が参加

実績とりまとめ

作業内容

枝下ろし：高木
剪定・伐採：低中木

参加者数

計：約10人

樹種

剪定：ライラック・シラカシ・マツ・ヒノキ・カツラほか

学校環境緑化モデル事業(植栽)

石川県能美市立寺井小学校



事業概要

前庭の端は人目につくものの、植栽がなく、頻繁な草取りなどの手入れが必要であった。また、飼育園芸委員会の児童や校務員が時折手入れをしているが、十分な対応が難しい状況であった。そのため、前庭の端に防草シートを敷き、ハツユキカズラを植栽した。

事業成果

前庭の手入れは児童だけでは行き届かないため、校務員の方に時折前庭の手入れ(育てた苗の植栽、植替え、草取りなど)をしていただいている。特に前庭の端は人目につき、頻繁に草取り等の手入れが必要なため、植栽と防草シートの要望が出ていた。今回の事業で、手入れ等の世話が楽になるとともに、見た目もすっきりと美しくなった。

事業をよく知る関係者の声

- 当校は、能美市内の伝統校のうちの一つで、開校以来、校庭には多くの樹木や花が植栽、整備されている。完成式典の様子や事業報告書の内容から、子どもたちの緑や花に対する親愛の心が感じられ、周囲の自然豊かな環境とともに成長する様子が見えてくる。

参加者の声

- 全国で緑の募金など環境保全活動に多くの寄付金が集まっていることを知った。私たち児童もこの募金活動に協力したいと思った。(児童会役員)
- 学校に来る人たちが、植栽してもらったハツユキカズラをみて、少しでも心が温かくなってほしい。(飼育園芸委員会児童)



完成式典



ハツユキカズラを記念植樹



代表児童・職員など27人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：40㎡
植付株数：360株
イベント：1回
防草シート

参加者数

学内：27人
学外：2人
計：29人

樹種

ハツユキカズラ

国造で広がる ふるさと教育推進事業

石川県能美市立和気小学校



事業概要

6年生の総合的な学習の時間において、朱鷺が戻ってこられる自然環境づくりに取り組んだ。実施内容として、虚空蔵山にドングリの苗28本を植樹した。植樹に当たっては、児童一人一人が植樹への思いや願いを書き込んだプレートを作製し、苗木に添えた。

事業成果

虚空蔵山の環境保全を目的とした植樹活動を行ったことにより、植樹を担った6年生児童一人一人の課題意識が高まった。毎年春には、全校児童たてわりチームで虚空蔵山ウォークラリーを実施する。全校児童が植樹された苗木を目にすることで、学校全体での意識の高まりが期待できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・児童が自然に恵まれた環境で、自らの体験活動や取り組みを通して環境保全への意識を高める機会となっていた。児童が今後成長して大人になっても、今回の一連の活動を忘れずにいつまでも故郷を大切にする気持ちを持ち続けてほしい。そして、環境問題に主体的に取り組めるようになっていてもらいたいと考えている。

参加者の声

- ・総合的な学習で“時”について学び、“環境”についても学んだ。朱鷺が来ても巣を作れるようにするために、ドングリの苗を虚空蔵山に植樹し、田んぼでお米を作った。
- ・自然の良さを知るまでには大変なこともあるが、その良さを知るには一回自分でやってみないと次につながらないので、これからは何事も一回自分でやってみてから頑張りたいと思う。



虚空蔵山でクヌギを植樹



植樹後のクヌギと一緒に記念撮影



枝下ろしや剪定などの整備後



実績とりまとめ

作業内容

植付本数：28本

イベント：1回

参加者数

学内：33人

学外：7人

計：40人

樹種

クヌギ

ぶどっこ池のビオトープ整備

山梨県甲府市立甲運小学校



事業概要

本校創立150周年を記念し、校舎南側に設置されているぶどっこ山・池の整備が計画された。ぶどう棚の敷設及びぶどっこ池の漏水防止工事を行い、本事業を活用したぶどっこ池のビオトープ整備を図った。また、校庭の樹木の枝が伸び、照明や遊具にかかるなど、安全性を脅かすようになってきた。そこで、保護者及び地域の方と協力し、ケヤキの高枝の剪定及びサクラの伐採を実施した。

事業成果

ケヤキの高枝を剪定することにより、枝が折れて上から落ちてくることもなくなり、校庭や校庭内の遊具を安全に活用することができるようになった。また、高枝の剪定及びサクラの伐採では、保護者及び地域の方のご協力を得て、作業を進めることができ、学校の環境整備だけでなく、地域との連携も深めることができた。さらに、ぶどっこ池のビオトープ整備により、自然に親しむ児童が増えた。

事業をよく知る関係者の声

- 本校150周年記念の一環として、ぶどっこ山及び池の整備を学校・保護者・地域が連携し、行ってきた。今回、本事業に取り組むことで、ぶどっこ池のビオトープ整備が進み、ぶどっこ山とともに児童の学習や遊びの場として、一層の活用ができるようになった。今後、高枝を剪定した校庭も含め、より良い環境の中で児童がのびのびと学校生活を送ることができる。(甲運地区連合自治会会長)

参加者の声

- 普段見ているぶどっこ山及び池が今回の完成式典を受けて、多くの人たちの協力により、多くの自然を豊かに残していることに気づく児童が多かった。また、今回の高枝剪定やぶどっこ池のビオトープ整備により、新たな生活環境が作られたことを身をもって感じ、学校の自然をしっかりと守っていこうと考える機会になった。(参加した6年生の児童の声)



高所作業車を使用し校庭の樹木の枝を剪定



完成式典にて5種の淡水魚を放流



児童・教職員など約60人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

高枝剪定・伐採本数：11本
倒木・流木設置本数：2本
池への水生植物設置：10株
淡水魚の放流：5種類200匹
イベント：1回

参加者数

計：約60人

よみがえれ! 古代の蓮が咲く私たちのハス池・田んぼ水族館

長野県中野市立延徳小学校



事業概要

学校のシンボルでもある2000年前のハスの種から発芽した古代の大賀ハスが植栽されている2か所のハス池。近年水漏れがあり、ハスの生育に不安があった。この水漏れの改修を行い、大賀ハスを次の世代へ引き継いでいく。また、このハスが移植された「田んぼ水族館」も整備し、児童が活動しやすい場所にしていく。(移転の可能性もあり実施せず)

事業成果

水漏れがあり、定期的に水を入れる必要があったが、工事の成果で水漏れがなくなった。今後はハスも安定して生育していくことができそうである。今年度の花が咲くのを楽しみにしている。また、学校が高台にあるためこれまで水道水を定期的に入れており多くの費用がかかったが、それもなく学校予算の面でも改善することができた。

事業をよく知る関係者の声

- これまでハスがきちんと生長しているか毎年不安だった。特に夏場は水がきちんと入っているか心配だったが、水漏れの心配がなくなり安心していている。会のメンバーも高齢化が進み、様子を見に行くことが大変だったがこれで少し安心できる。今後は、毎年安定した花を咲かせてくれると思う。(ハスの管理にご協力いただいている「里山の自然を守る会」の方々から)

参加者の声

- 大賀ハスの池に水漏れがあり、管理するのが大変だったとは知らなかった。今回の工事でこれからもきれいな花を咲かせてくれるとうれしい。(みどりの少年団団長)
- 毎年きれいな花を咲かせている学校の大賀ハスが、今後もっとたくさんの花を咲かせてくれることを期待している。(式典に参加した地域の方より)



正門下ハス池の漏水箇所(赤丸の部分)



正門下ハス池の漏水箇所修繕後



校舎横蓮池改修工事前



校舎横蓮池改修工事後

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
漏水箇所修繕(正門下ハス池)
改修工事(校舎横ハス池)
イベント：1回

参加者数

学内：48人
学外：15人
計：63人

樹種

ハナミズキ

真桑小どんぐり活用事業

岐阜県本巣市立真桑小学校



事業概要

真桑小体育館東側にある老朽しているケヤキ等により、枯枝の落下や倒木の危険があるため、児童が近寄らないデッドスペースになっている場所がある。この場所を児童らが安全に遊べ、また屋外学習の場所にすることを目的に、どんぐりのなる木を植樹した。また、伐採したケヤキは同場所にテーブルと椅子として残した。

事業成果

伐採時には、大型クレーン車が校内に入り作業の様子を見学した。チェーンソーや大木に登るために装着する履き物などを初めて見る機会があり、木を切る仕事についても興味を持ち、理解を深めた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 植栽予定の木が時期的に入手が困難で、植栽日や予定種

の変更があった。

- ・ 子どもたちにとって林業関係者とのふれあいがあったり、実際に伐採の様子を見たり、植樹の式典に参加したりと充実した取り組みとなった。
- ・ 市内他学校でも植栽する場所があるため、取り組みを広げていきたい。

(教育委員会)

参加者の声

- ・ どんぐりがとれるようになったらたくさん拾って遊びたい。今日植樹した木に負けぬように大きくなりたい。(児童)
- ・ 児童が学習で活用できる苗木の植樹によって、児童に新たな憩いの場を提供するとともに、学習への意欲を喚起する効果がある。(学校長)



チェーンソーの重さを体験する児童 (伐採の授業)



アラカシを記念植樹



完成式典の様子



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：52㎡
植付本数：4本
イベント：1回

参加者数

学内：72人
学外：6人
計：78人

樹種

アラカシ、コナラ

季節を感じる校庭づくり

静岡県浜松市立砂丘小学校



事業概要

津波被害を危惧する住民や学区にある市営団地の老朽化により、人口流出が起これ、児童数の減少が著しい。学校正門付近及び学校正面の校庭の緑化を進めることにより、登下校や学校生活の中でこれまで以上に季節を感じることができ、子どもたちの愛校心をはぐくむ場をつくる。

事業成果

学校だよりや学校ブログ、地元の新聞記事で本事業の取り組みを発信した。また、校門横という好立地から、季節ごとの校庭の変化の様子を時折、学校ブログで発信することができる。来校者にとって、目につく場所なので社会体育など施設利用で学校を訪れる多くの方々にも見ていただくことができる。

事業をよく知る関係者の声

- 子どもたちは登下校でよく目にする校庭が整備され、これまで以上に気持ちの良い環境になったと感じている。地域の方からも荒れていた校門横が早春に咲くカワヅザクラと、ゴールデンウィークを挟んで咲くシバザクラの丘に整備され、子どもたちの自慢が一つ増えたと思う。

参加者の声

- 記念植樹を終えた児童からは、「砂丘小に緑が増えてうれしい。」「桜の花の下で砂丘地区がもっと元気になってほしい。」という声が聞かれた。地域住民も一緒に植樹をし、子どもたちとの絆が深まったと感じた。この素晴らしい緑の環境を維持していきたい。数年後、本事業の成果が表れることから、未来に向かって語り継いでいきたい。



よみがえった校門前の築山花壇



児童代表によるシバザクラの植付け



児童・教職員・地域の方々など70人が参加



サクラをあしらった看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付・築山面積：60㎡
植付本数：1本
植栽株数：1,000株
(シバザクラ)
イベント：1回

参加者数

学内：60人
学外：10人
計：70人

樹種

カワヅザクラ

祝 50周年 向山の森 癒しの場計画

静岡県三島市立向山小学校



事業概要

敷地内の樹木を生かしながら子どもたちの癒やしの森とするために、剪定や伐採をし、環境を整え、安全かつ適切な木陰ができる場とする。同敷地にある丸太やタイヤが子どもたちにも人気があるので、それらに塗装を施し、子どもたちの憩いの場とする。また子どもたちの日常活動として花壇を整える。

事業成果

樹木の剪定は高所作業が多かったため、子どもたちは気づきにくいと思われたが、癒やしの森で過ごすことが楽しくなったようである。また、樹木を整えていただいたことで、落木の心配もなくなり安心して居る。丸太やタイヤをきれいに塗装したため、これまで以上に子どもたちが遊んだり集ったりするようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・50年で樹木がだいぶ大きくなっており、適切に手入れされている状況とは言えないので、高所を中心に剪定、伐採をし、日差しの入り方なども考えて整えた方がよい。高所の伐採は、学校職員やPTAの整備作業ではできないことなので、専門家の力が必要である。このような事業を活用できることは大変意義がある。

参加者の声

- ・50周年に向けて、学校環境が整うのは大変良いことである。また、子どもたちに人気のタイヤや丸太がきれいにリニューアルしたこともとても良い。子どもたちの喜ぶ姿が目に見え、浮かぶ。
- ・学校にはなかなか資金がないので、このような助成金は本当にありがたい。花壇、樹木、遊具など環境が整い、とてもうれしく思う。



委託業者による剪定作業中



剪定・伐採して明るくなった向山の森



PTA、教員による丸太椅子の塗装



6年生全員が参加した完成式典

実績とりまとめ

作業内容

伐採本数：5本
 剪定本数：8本
 花壇整備：4か所 (24㎡)
 塗装(タイヤ遊具、丸太)：
 27本

参加者数

学内：106人
 学外：89人
 計：195人

なかぜっ子 森もり大作戦

静岡県浜松市立中瀬小学校



事業概要

中瀬小の校庭には、児童から「なかぜの森」と呼ばれている樹木が生育する場所がある。児童はその木々の中で鬼ごっこやかくれんぼなどをして遊んでいるが、枝が伸びて荒れてきたため、本事業において、樹木の剪定を行うこととした。併せてハナミズキの植樹を実施し、児童の自然を愛し、大切にすることを目的とした。

事業成果

「なかぜの森」の危険な樹木や枝が取り払われて、森の中で児童が遊んでもケガをしにくい環境となった。そして、樹木の剪定によって森の中に光が入るようになり、児童は、今までよりも明るい環境の中で遊ぶことができるようになった。園芸委員会の児童を中心に完成記念式典を開催することで、全校児童の自然を愛する気持ちをさらに高めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・高木が多く、枝が伸び、荒れていたので児童が遊ぶには危険な場所もあった。本事業できれいに整備をしていただき、児童も安心して遊ぶことができるようになった。
- ・木々が多い場所にハナミズキが植えられ、児童が花を楽しみながら自然に親しむことができるようになって大変喜ばしいことである。

参加者の声

- ・みんながよく遊ぶ「なかぜの森」が生まれ変わってとってもうれしい。これからも大切にしていきたい。
- ・園芸委員会として完成記念式典の司会を務め、緊張をしたけどしっかりとできて良かった。僕たちが卒業をしても、きれいになった「なかぜの森」をみんなで大事に使ってほしい。



剪定作業前



児童代表によるハナミズキの記念植樹



「なかぜの森」と完成記念式典に集まった児童



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：50㎡
 植付本数：2本
 剪定本数：6本
 園地整備面積：380㎡
 イベント：1回

参加者数

学内：150人
 学外：5人
 計：155人

樹種

ハナミズキ

ヒヨドリコース整備

愛知県豊田市立豊松小学校



事業概要

目的は、学校環境の緑化を通じて、青少年環境教育を推進することである。主な活動は以下のとおりである。①校内遊歩道内の伐採、枝払い、剪定、②校内遊歩道の丸太土留の設置、③サクラの植樹。

事業成果

樹木が大きくなりすぎて、歩くコースが狭くなったり、大雨で土砂崩れが起きたりして歩きにくくなっていた。遊歩道内の樹木の伐採や枝払い、剪定、丸太土留の設置により、児童が安全に鳥の観察やササユリの保護活動ができるようになった。この美しい環境を保てるように活動を続けたいという意欲が高まった。

事業をよく知る関係者の声

・児童、職員数の減少により、ヒヨドリコースの整備が難

しくなってきた。伐採や剪定をしてもらい、明るく安全な環境ができた。クラブで来年度以降引き続き環境保護に努めたい。(自然クラブ担当教諭)

・サクラが老朽化して、学校内にサクラが少なくなり寂しく思っていた。児童が植えたサクラが大きくなるのが楽しみである。(教頭)

参加者の声

・見違えるほど、きれいになったヒヨドリコースで早速鳥クイズを作って掲示した。全校のみんながヒヨドリコースの鳥クイズに参加してくれたのでうれしい。(5年児童)

・ササユリの保護活動を頑張って行ったが、日陰のところはあまり咲いていなかった。ササユリ教室が明るくなったので、来年もっとたくさんのササユリが咲くことを期待している。(6年児童)



作業前の校内遊歩道沿い斜面の様子



サクラを記念植樹



参加者全員の集合写真



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：10㎡
植付本数：5本
伐採本数：10本
剪定本数：45本
丸太土留：6m
イベント：1回

参加者数

学内：42人
学外：10人
計：52人

樹種

サクラ

学校環境モデル事業(植樹・環境整備)

愛知県田原市立高松小学校



事業概要

校名を象徴する正門付近の築山におけるマツの枯死を受け、地域の方や保護者、児童の誇りを取り戻すことを目的に、学校の新たなシンボルとしてマツの植樹を実施した。併せて、生垣の整備を実施し、通学路の明るさの向上と、登下校を見守り機能を担う存在となるよう環境の整備を図った。

事業成果

児童は入学以来、見守ってきてくれた築山のマツが枯れてしまい、残念な気持ちになっていた。本事業でマツを復活させることができ、学校への愛着と誇りを取り戻すことができた。また、植樹により以前よりも緑が豊かになることで、児童に環境への意識を高めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・本校に勤務している教員らはシンボルとなる2代目のマツを植樹してもらえたので喜んでいました。
- ・地域の方々も生垣を整備したおかげで、生垣に隙間がなくなったので児童の安全を確保することができ、安心していました。

参加者の声

- ・ローソンの協力により、マツを植樹することができて良かった。(児童)
- ・枯れたマツをどうするか気になっていたのですが、新しく植えてもらえて良かった。(児童)
- ・正門横の生垣は気になっていたのですが、整備できて良かった。(保護者)
- ・シンボルとなるマツが復活して良かった。(保護者)



整備した正門横の生垣



クロマツを記念植樹



児童・教職員など90人が記念式典に参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：20㎡
植付本数：11本
下刈面積：5㎡
イベント：1回

参加者数

学内：86人
学外：4人
計：90人

樹種

クロマツ、キンメマサキ

下野小学校みんなの杜事業

三重県四日市市立下野小学校



事業概要

本校は、四日市市の北西部に位置し、周りを田園に囲まれた環境の学校である。セコイアの樹とよばれる大きなシンボルツリーはあるが、校庭を囲んでいる木々は、近年、伐採などにより木陰となる樹木が少なくなっていた。そのため、サクラなどの花や、ドングリなどの実を楽しむことができ、木陰で憩える場所を整備することを目的として、本事業を実施した。

事業成果

本事業により、樹高およそ3メートルの5本の樹木(サクラ、カシ、ハナミズキ、クロガネモチ、イロハモミジ)を植樹した。これらの樹木は、それぞれ季節ごとの楽しみを提供するものであり、子どもたちはその生長を大変楽しみにしている。今後、これらの樹木が大きく生長し、下野小学

校の憩いの場となることが期待される。

事業をよく知る関係者の声

- ・本事業で植樹してもらったことで、校庭に緑が増えてうれしく思っている。緑豊かな環境が、子どもたちはもちろん学校を訪れる人たちにも、安心や安らぎを与えてくれるだろう。木が大きくなって、憩いの場所となるのがとても楽しみだ。みんなで見守っていきたい。

参加者の声

- ・セコイアの樹のように、わたしたちを見守ってくれるものが増えることは、とてもうれしい。
- ・木が早く大きくなって、きれいな花を咲かせてほしい。
- ・ドングリの実がなったり、日影ができて、休む場所ができるようになるのが、とても楽しみ。



代表児童らで記念植樹



植樹した場所と事業看板



児童・教職員など519人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：48㎡
植付本数：5本
イベント：1回

参加者数

学内：513人
学外：6人
計：519人

樹種

サクラ、カシ、イロハモミジ、
クロガネモチ、ハナミズキ

吉田山整備事業

三重県四日市市立常磐西小学校



事業概要

学校林(吉田山)での活動は、学校教育ビジョンに掲載されており、地域の特色を生かした学習や体験活動の推進として位置づけられている。児童が自然に親しみ、安全に森林や環境について学習できる里山を構築するために、不要木の伐採、生育環境を整えるための枝払い・剪定、観察路の整備、ビオトープのフィールド整備を行った。

事業成果

不要木の伐採(約10本)、枝払い・剪定(約50本)、観察路の整備、ビオトープのフィールド整備を行った。倒木の恐れのある樹木がなくなり安全性が高まるとともに、日当たりが良くなり下層植物の発達が促され、健全な森林を育てる環境を整えることができた。環境を整えることで、子どもたちの活動範囲が広がり、生活科、理科を中心とした自然学習だけでなく、休み時間にも自主的かつ積極的に吉田山に入って活動する姿が見られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・立ち枯れている樹木も数本あり、事故が起こる前に対処することができて良かった。
- ・土砂の流出対策として、子どもたちと観察路をつくることで対応した。土留めの役割と観察路設置の両方を同時にすることができて良かった。
- ・観察路整備を子どもたちで行った。吉田山の大切さを実感させることができて良かった。
- ・今後も継続的な管理整備が必要。

参加者の声

- ・整備事業に子どもたちも参加することで、子どもたちに森林の大切さや里山保全の重要性を伝えられて良かった。
- ・式典では、子どもたちが司会運営を行っており、自分たちの学校林を守っていこうという気持ちが伝わってきた。
- ・教職員だけで吉田山を整備していくのは難しい。今回のような助成や整備を行ってもらえるのはとても助かる。



不要木の伐採



ビオトープの清掃



観察路の整備



クヌギの植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha
 植付本数：4本
 下刈面積：0.3ha
 除伐面積：0.2ha
 イベント：3回
 水生植物の植栽

参加者数

学内：741人
 学外：26人
 計：767人

樹種

クリ、クヌギ

鳥居本中学校 緑を育み愛でようプロジェクト!

滋賀県彦根市立鳥居本中学校



事業概要

全校生徒60名の小規模校であるが、小中連携型一貫校、鳥居本学園として9年間を見通したカリキュラムを実施している。校区林のある男鬼(おおり)での森林学習や小中合同のクリーンアップ作戦等、充実した総合学習を行うために本事業を活用して植樹や樹木の手入れを実施し、さらに環境学習やSDGs学習との連携を深める。

事業成果

長年懸念されていたケヤキの伐採ができた。前庭の剪定作業を、創立10周年記念式典の直前に実施していただき、来校者から好評であった。また、式典を開催することで、関係者の思いを直接聞くことができたり、記念植樹に生徒が参加したりすることで、緑を育み愛でる気持ちの醸成に大きく貢献できた。

事業をよく知る関係者の声

- 生徒会本部役員が本事業のネーミングを決める際、学校の環境整備に大きく寄与していることを知り、学級において生徒同士の会話が弾んだ。地域コーディネーターから、良い取り組みで今後も継続できるといいとの言葉をいただいた。施工業者からは、設置した看板に写真を入れる取り組みは初めてで、他校にも紹介したいとおっしゃっていた。

参加者の声

- 生徒会本部役員の在籍する2年生を中心に事業を実施し、植樹や式典への参加を通じて緑を育み愛でる意欲を高めることができた。
- 本事業の関係者の方から生の声を聞き、自分自身も環境整備などできることから少しずつ関わっていきたい。(式典に参加した生徒)
- 普段ではできない貴重な体験ができたとの感想を得た。(記念植樹を担当した生徒)



完成式典の様子



完成式典の集合写真



記念植樹の様子



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：20㎡
植付本数：2本
整備面積：50㎡
イベント：1回

参加者数

学内：31人
学外：4人
計：35人

樹種

ソメイヨシノ

REBORN! 生き物あふれる「いなえっこカナル」!!

滋賀県彦根市立稲枝東小学校



事業概要

環境教育の充実を目的として、本校同窓会からのご寄付により整備された、本校の象徴の一つであるカナル*を、メダカを中心とした生き物があふれる場所として整えるとともに、サクラやドングリの実がなる木を植樹する。これらの取り組みを通して校内緑化を推進し、児童の憩いの場を整備・充実させることで、豊かな学びの実現につなげる。

*カナルとは、運河・水路を表す英語であり、造園用語としては「修景手法のひとつで細長い直線水路」を意味するものである。稲枝東小学校では、校庭の水路(池)の呼称である。

事業成果

カナルに水を引き、水生植物を入れることにより、休み時間にカナルの周りで過ごす児童の姿が戻ってきた。暖かくなると、さらにメダカや水生植物も増える予定であることから、子どもたちの憩いの場としてだけでなく、環

境学習を進める場としての活用も期待できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・本事業の実施により学習環境の充実につなげることができた。ドングリの実がなる木も植樹いただいたことにより、低学年の創意工夫した学習活動の充実も期待できる。今後、地域の方のご協力により、カナルにメダカを寄付いただき、生き物あふれるカナルの整備をさらに進めていく予定である。(校長)

参加者の声

- ・生き物いっぱいのカナルになるのが楽しみ。(児童)
- ・秋になったら手軽にドングリを使って学習ができるようになったのでありがたい。(教員)
- ・子どもたちの憩いの場として再整備いただけてありがたい。(同窓会)



完成式典の様子



記念植樹の様子



改修されたカナルの前で記念撮影



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：40㎡
 植付本数：4本
 イベント：1回
 水生植物の植栽（ナガバオモダカ、ミズバショウ、ヒメスイレンほか）

参加者数

学内：100人
 学外：4人
 計：104人

樹種

ソメイヨシノ、クヌギ、シラカシ、コナラ

木津川市立上狛小学校 みんなの緑化事業

京都府木津川市立上狛小学校



事業概要

京都府木津川市立上狛小学校は、令和5(2023)年に創立150周年を迎えた。これを機に、緑豊かな校内環境の緑をさらに充実させることを目的として、本事業を活用した。事業内容としては、校内の木々の境界越境の枝払いと高木の剪定を実施した。また、ソメイヨシノとハナミズキの記念植樹を6年生が、洋ナデシコ(テルスター)の植栽を5年生が行った。

事業成果

緑豊かな校内環境の整備(校内の木々の枝払いと剪定)について、全校児童にその旨を伝えることで、校内の自然に再度目を向ける良い機会になった。また、記念植樹や植栽の活動では、5・6年生児童に対して、本校創立150周年のお祝いを意識させながら、自然を大切に思う思いをしっかりとらせるように声掛けして取り組めた。今後、本校一同で大切に育てていきたいと考えている。

事業をよく知る関係者の声

- ・記念式典について、学校で決める時に大まかな司会原稿等があれば参考にできたかと思う。式典の際に実際の植樹活動も入れてもよかったが、当日は雨だったため、予備日の設定も必要と思う。また、造園業者の方々には、大変丁寧にご対応いただき、大変感謝している。造園業者選定も学校での検討だったため、候補者リスト等があればなお事業を進めやすいと感じた。

参加者の声

- ・大変すてきな記念式典だった。
- ・上狛小学校150歳おめでとう。
- ・お祝いの意味を込めて、記念植樹に直接関わることができて、とても光栄だ。
- ・理科の授業で、木を植えることにより空気中のCO₂を減らせることを学び、木を守ることで地球温暖化を止めることにつながれば良いと思う。



ソメイヨシノ、ハナミズキを記念植樹



植樹箇所の全景



児童・教職員など38人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：15㎡
植付本数：2本
下刈面積：15㎡
イベント：1回

参加者数

学内：30人
学外：8人
計：38人

樹種

ソメイヨシノ、ハナミズキ

若江の森 150周年記念事業

大阪府東大阪市立若江小学校



事業概要

創立150周年記念式典に併せて、校内に木や草花に囲まれた憩いのスペース「若江の森」を整備した。校内の緑化を進め、児童が自然とふれあう場を増やすことで、自然環境への理解を深め、環境問題に意識をもつきっかけとなることを期待している。また、植樹とともに木のベンチを製作する体験を通して木のぬくもりや大切さを身近に感じる機会とした。製作したベンチは、「若江の森」に設置し、児童が気軽に自然に親しめる空間とした。

事業成果

校庭に整備された森は、日常的に自然に触れる機会を提供し、子どもたちが植物や生物の変化を身近に観察して学ぶ場となる。環境教育や理科の教材としての価値もあり、教科横断的な学びにもつながる。また、保護者や卒業生にとっても親しみを持って受け入れられる環境になった。学校が地域コミュニティとの連携を継続する基盤ができた。

事業をよく知る関係者の声

- 成果としては、学校の校庭に森が整備され、地域住民や卒業生からも支持されていること、次世代に引き継ぐ財産として価値があることが挙げられる。150周年という節目での取り組みは、未来を見据えた学校の姿勢を示すものであり、今後も持続可能な空間として大切にされるであろう。課題としては、維持活動のための資金調達や助成金獲得に向けた取り組みを検討していくことである。

参加者の声

- オープン記念会に参加し、校庭に若江の森ができた瞬間を子どもたちと一緒に祝えたことが感動的だった。風船が空に舞い上がる様子に、子どもたちの未来が広がるような気持ちがあった。この森で学び、成長する姿が楽しみ。
- 森のオープンによって、これからの授業が楽しみ。実際に自然に触れられる場所ができたことで、教室だけでは学べない経験がたくさんできそう。



花壇への土入れ



花壇への種まき



ベンチ製作



完成した若江の森

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：51㎡
 植付本数：9本
 下刈面積：363㎡
 除伐面積：50㎡
 イベント：1回

参加者数

学内：483人
 学外：約500人
 計：約1,000人

樹種

コナラ、キンモクセイ、アジサイ、モチノキ

神田小学校緑と花いっぱいプロジェクト

大阪府池田市立神田小学校



事業概要

大きく高い木が多い「神田の森」に、6年生が思い出に残るシンボルツリー（サクラ・モミジなど）や食べられるウメやレモンの木を植樹した。植物が一切生育していなかった池については、令和5年度の卒業生が池のまわりのにぎやかなペイントを施し、今年度は泥などを除いて清掃後、メダカが過ごしやすいスイレンや水草などの水生植物を入れた。また、枯れかかっていたツツジの植え替えも行った。

事業成果

本事業で「神田の森」はにぎやかになり、実のなる木が早く大きくなるのを楽しみにしている。自然豊かになった森に子どもたちが行き来し、走り回ったり、ベンチで過ごしたりする姿が見られる。また、池の整備により、メダカなどの生き物が過ごしやすい環境となった。池に咲くスイレンの花や元気に泳ぐメダカを見ようと、池のまわりに集まる子どもたちが多くなり、楽しく会話する姿が見られる。

事業をよく知る関係者の声

- 6年生の総合学習の時間の取り組みとして、この緑化事業に取り組んだ。子どもたちと考えながら進め、地域の方や校務員の方に樹木のことや育て方を教えてもらい植樹するシンボルツリーを絞っていった。植樹のために土を掘り起こして植えたり、スイレンの株を鉢に植えるために土を水でこねたり、子どもたちにとって、とても良い経験となった。

参加者の声

- 「緑の募金」事業完成式典では、緑化事業についての説明やローソン関係者のお話を聞くことができた。みなさんから寄せられた大切な募金により、神田小学校の緑化活動に取り組むことができたことをとても有難く感じた。緑化事業を進めていく上で、地域の方ともつながりながら取り組めたことに感謝している。



記念植樹で土かけの様子



完成式典



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：106㎡
植付本数：10本
花苗株数：40株
池の整備面積：約40㎡
イベント：1回

参加者数

学内：105人
学外：6人
計：111人

樹種

サクラ、イチョウ、モミジ、キンモクセイ、ツツジほか

学校のシンボルけやきの木を元気にするプロジェクト

兵庫県三田市立三田小学校



事業概要

本事業において、ヤマボウシの記念植樹と学校のシンボルである校門横の巨木・ケヤキの樹勢回復を実施した。ケヤキの樹勢回復においては、ケヤキの根元に堆積したシルトと呼ばれる細かい粘土層の除去作業（深さ5cm～10cm、広さ約100㎡）を行うとともに、長年の踏圧により硬くなった根域の土壌を柔らかくする作業も施した。

事業成果

学校のシンボルであるケヤキの樹勢が衰える原因となっていた根元に堆積したシルトと呼ばれる細かい粘土層の除去作業及び根域土壌の膨軟化作業を実施できた。さらに、シルト層ができる原因となる根域周辺への運動場からの雨水及び土砂の流入を防止し、根域を守る工事を行った結果、樹勢回復につながった。

事業をよく知る関係者の声

- ・樹齢200年と言われる学校のシンボルツリーの樹勢回復に向けた取り組みと第3学年の環境体験学習を関連付けた。その結果、敷地内の様々な樹木への関心が高まり、樹木医からの聞き取りをもとに、学校緑化に向けた植樹選定を行った。選定では、3年生が全校生への動画提案と投票を実施し、児童の主体的な学習活動の動機付けとなった。こうした取り組みにより、学校緑化と学習効果が高まった。

参加者の声

- ・学校にある樹木のことや植樹に向けて様々な木のことを調べ、発信することができたことがうれしい。またケヤキの木が元気になることについて教えてもらったことや自分たちで取り組んだことを全校生や地域住民に伝えることができて良かった。



ケヤキの樹勢回復のため粘土層の除去作業を実施



ヤマボウシを記念植樹



記念式典の様子



学校のシンボルであるケヤキと一緒に記念撮影

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
工事面積：0.1ha
イベント：1回

参加者数

学内：700人
学外：40人
計：740人

樹種

植付：ヤマボウシ
樹勢回復：ケヤキ

前栽小学校創立150周年記念事業 プロジェクト150

奈良県天理市立前栽小学校



事業概要

校内の樹木環境を整備するため、大きくなった樹木の剪定や土壌改良などを行い樹勢回復を図った。また、児童の緑化への関心を高めることを目的として、前栽小学校150周年事業の一環として記念植樹を実施した。

事業成果

ヨウコウザクラ4本、ヒラドツツジ80本を校舎前花壇並びに北門付近に植樹し、緑化環境が整った。今後、卒業生の見送りや新入生を迎えるシンボルとなることを期待している。

事業をよく知る関係者の声

- 子どもたちが、木々の育成や保護活動に関心を持ち、環境緑化の大切さを理解し、自然や郷土を愛する人に成長してくれることを期待している。また、卒業式や入学式で学校を訪れる、子ども、保護者、地域住民にとって心が癒やされる場になることを願っている。

参加者の声

- みんなの思いを集めて植える樹木を、みんなで大切に育てていきたい。(児童)
- 春になって、きれいなサクラを見るのが楽しみだ。(児童)
- 自分たちの学校に木々等を植樹していただいて、子どもたちみんな喜んでいる。(保護者)



ヒラドツツジ植栽作業



花壇の土壌改良



児童代表による記念植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：40㎡
植付本数：84本
剪定本数：7本
土壌改良：40㎡
イベント：1回

参加者数

学内：130人
学外：8人
計：138人

樹種

ヨウコウザクラ、ヒラドツツジ

学校環境緑化モデル事業

鳥取県鳥取市立福部未来学園



事業概要

校庭外周フェンス沿いの樹木が大きくなりすぎ、歩道の通行にも支障が生じていた。そこで、学園生も地域の方も安全に通行できるようにするとともに、学校環境を整備し、見通しの良い明るい環境をつくること、さらに自然や緑を大切に作る学園生を育てることを目的とし、樹木の伐採及び剪定を行った。

事業成果

校庭外周の見通しが良くなった。歩道にかかっていた枝がスッキリと整備され、登下校時や部活動でのランニング等で、安全に通行できるようになった。普段から、学校周辺の環境整備に主体的に取り組む学園生であったが、今回の事業をきっかけとして歩道に名前を付けたり、そこに設置する看板を作製する活動を通して、環境を守る意識がさらに高まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・成長しすぎた木や倒木の危険のある木などを適切に剪定や伐採したことで、見通しが良く、明るく、安全で快適な環境となった。
- ・4年生「緑の少年団」が、未来学園で将来に向けて学習や生活を頑張っていこうという思いを込め、整備された歩道を「みらいへの道」と名付けたことで、学園全体に緑化事業のことを周知でき、より一層学校環境について考えるきっかけとなった。

参加者の声

- ・学園の周りをきれいにしていただき、ありがとうございます。僕たちは、春から緑の少年団として、水やりや、落ち葉はきを頑張ってきた。花も木も生きているのだから、という気持ちでやってきた。完成式典に参加して、緑化事業のこともよく分かった。これからも「みらいへの道」をきれいにして、環境を守っていきたい。



校庭外周通学路整備後



完成式典お礼のこぼ



児童・教職員など35人が参加



整備された道を「みらいへの道」と名付け、事業看板の上に設置

実績とりまとめ

作業内容

剪定面積：600㎡

剪定本数：61本

伐採面積：40㎡

伐採本数：4本

イベント：1回

参加者数

学内：28人

学外：7人

計：35人

樹種

剪定：サザンカ、アベリア、ムクゲ

伐採：カシ、カエデ、カイノキ

持続可能な町づくり：受け継ごう次の世代へ～木とともに緑あふれる私たちの掛合中学校～

島根県雲南市立掛合中学校



事業概要

学校周りの樹木整備や間伐材のベンチ製作を行い、ベンチは町内事業所へ寄贈をした。この活動を通じて、児童が学校環境に目を向け、愛校心をはぐくむとともに、飯石森林組合と連携して循環型林業について学び、本校が推進する持続可能な街づくりに関する探究学習を深める機会とした。また、ヨウコウザクラ（陽光桜）の追加植樹により、本町出身の竹下元首相ゆかりのサクラの存在を知り、故郷への愛着を深めることを目的とした。

事業成果

地元の森林組合の協力のもと、生徒、職員が学校環境や、林業への関心をもつことができたとともに、地域課題解決学習への理解を深められた。完成式典についての町内への広報、地方紙への掲載等により、本校にまつわるヨウコウザクラの逸話について、広く情報提供を行い、学校・町のシンボルとして今後も保全されていくことが期待できる。

事業をよく知る関係者の声

- ベンチを製作する活動で循環型林業についての学びを深めて良かった。
- 持続可能な町づくりへの探究学習と関連させていたことが良かった。
- ヨウコウザクラにまつわる話は今回初めて知った。守っていくことは大切なことだ。
- 今回の伐採・植樹に加え、今後の継続した管理が必要。

参加者の声

- 校庭の木の整備見学やチェーンソー体験などもさせていただき、林業に興味を持った。
- 環境と人と町は密接に関わっていて大きなつながりをもっているということを学んだ。
- ベンチ製作などを通して森林を守っていくこと、活用することの大切さを学び、今後の探究活動に生かすとともに、ヨウコウザクラを学校・町のシンボルとして大切にしていきたい。



間伐材を利用したベンチの制作



ヨウコウザクラを記念植樹



生徒・教職員など 50人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
 植付本数：5本
 除伐面積：35.8㎡
 イベント：3回

参加者数
 学内：50人
 計：50人

樹種
 ヨウコウザクラ

誕生寺支援学校「小鳥の森」再整備事業

岡山県立誕生寺支援学校



事業概要

本校西側の斜面にある「小鳥の森」を児童生徒や地域の方々が集える場として再整備するため、400㎡にシバザクラを植栽した。

事業成果

整備中も地域の方々や久米南町の方々から、話題に上がるなど、本校への理解を深めていただくのに一定の効果があった。

事業をよく知る関係者の声

- ・薄暗かった森を伐採した後、裸地となっていた小鳥の森にシバザクラを植栽したことで、花が咲き、華やかな景観となることが楽しみである。
- ・小学部の歩行訓練の途中にあり、子どもたちの楽しみが広がる。

参加者の声

- ・早くシバザクラの花を見たいので、大きく育てほしい。
- ・みんなと一緒にシバザクラの植栽ができて楽しかった。



「小鳥の森」整備前の様子



シバザクラを斜面一面に植栽



シバザクラを記念植栽



児童・教職員など23人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植栽面積：400㎡（シバザクラ）

下刈面積：400㎡

イベント：1回

参加者数

学内：17人

学外：6人

計：23人

味野小学校 水辺の森事業

岡山県倉敷市立味野小学校



事業概要

老朽化により撤去された旧自然観察池に代わる役割を担うため、水漏れにより長年使用できなかったピオトープ池を修繕した。本事業により、児童が水辺の生き物にふれあうことのできる環境を再整備し、自然体験の機会を創出するとともに、緑化保全への意識醸成につなげることを目的とする。なお、維持管理については飼育・栽培委員会が担当し、水や生き物の管理に加え、親しみを持てる池のネーミングを公募するなどの取り組みを行う予定である。

事業成果

本校運動場にはポプラを主とした高木が何本も生えており、暑い時期には、子どもたちは木陰で涼を得ている。しかし、数年前に倒木。さらに、隣接する建物の屋根に接触し、破損するおそれがないか懸念していた。本事業で上部を伐採することで、安全で豊かな緑を保つようにでき、す

っきりとした木陰で子どもたちは涼を得ている。

事業をよく知る関係者の声

- ・運動場の南側の高木は、台風襲来の際は木が倒れることをいつも心配していた。事実、数年前に倒れたことがある。また枝が伸びすぎて、川を挟んだ施設の屋根に当たることもあり、手入れが必要であった。自然観察池は、昨年度まで中庭にあった池が撤去され、水辺に親しむ機会がなくなっていたため整備されて非常に良かった。

参加者の声

- ・飼育栽培委員会が中心となって、新しくなった池の管理をすることになった。池の名前も児童に親しみやすい名前になるよう、公募する予定である。また、池で飼う生き物も興味本位ではなく、持続可能な池になるような生き物を入れ、自然のことを考えるきっかけと実践の場として今後も有効利用したい。



運動場南高木上部の枝下ろし作業後



修繕した自然観察池で完成式典を実施



観察池前で記念写真



看板を製作

実績とりまとめ

作業内容

高木上部の枝下ろし：8本
イベント：1回
ピオトープ池修繕

参加者数

学内：12人
学外：4人
計：16人

よしわ150桜の広場

広島県廿日市市立吉和小学校



事業概要

児童に植樹の体験をさせることと、樹木への親しみが持てるような憩いの場をつくることを目的として本事業を行った。実施内容は、ソメイヨシノ3本とツツジ36本を専門家による指導のもと植樹を行い、丸太のベンチ2脚を設置した。児童が樹木への親しみをもち、心を休めることができる憩いの場ができた。

事業成果

本校の地域は、山林が98%を占める山間部であるが、木を植える体験をした児童は少ない。そのため、サクラとツツジの植樹は、貴重な体験になった。昼休憩や大休憩には、本事業で設置したベンチに腰掛け、自ら植えた樹木を見ながらくつろいでいる光景がある。学習や遊びで疲れた心と体を癒している様子があり、樹木への愛着も育っている。

事業をよく知る関係者の声

- ・周りに木がある山村の小学校であるが、木を植える体験をしている児童は少ない。事業を通して、自分たちが植えた樹木を普段から見ることができる。樹木が山の中にあるものという捉えから、樹木が大きく成長していくことや、花を咲かせることを間近に見ることで、木も生きていることを感じさせる学びの場となった。

参加者の声

- ・学校に新しい木を植えて、学校がきれいになって心地良くなったような気がしてうれしい。
- ・学校に木を植えるプロジェクトがあることや、そのため募金がローソンで行われていることを知った。これから募金を積極的にしたいと思った。
- ・私が大事だと思ったことは、たくさんの方がローソンで募金をしてくださっているのだから、木などの緑を大切にしようと思った。



完成式典の様子



サクラ、ツツジを記念植樹



児童・教職員など35人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：111㎡
植付本数：39本
イベント：1回

参加者数

学内：28人
学外：7人
計：35人

樹種

ツツジ、サクラ

屋島東小学校環境緑化事業

香川県高松市立屋島東小学校



事業概要

運動場東・南側に並んでいるカイヅカイブキやクスノキは、植樹から数十年が経過し、樹高が高くなったことで適切な手入れが困難となっていた。周辺には遊具や鉄棒が設置されており、落枝による児童への影響が懸念されていた。

本事業では、児童が安全に活動できる環境を確保するため、カイヅカイブキとクスノキの剪定を実施するとともに、モッコクの植樹を行い、校内緑化環境整備への意識啓発を図った。

事業成果

クスノキやカイヅカイブキの枝の剪定が行われたことにより、落枝が児童に当たる心配がなくなるとともに、景観が良くなる効果があった。さらに、モッコクの植樹により、自然や環境を守っていかうとする児童の意識の高まりが見られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・運動場の樹木の落葉が減り、管理しやすくなった。(学校用務員)
- ・樹木の枝の剪定により、児童の活動において安全性が高まった。
- ・樹木の経年変化に伴う維持管理について、継続的にご支援いただきたい。

参加者の声

- ・今まで樹木の枝が落ちてきそうで心配だったけど、枝払いをしてくださったことにより、安心して校庭で走り回って活動することができるのでうれしい。
- ・今まで、運動会の時に、国旗などの旗がよく見えなかったけど見えるようになったので良かった。
- ・モッコクの木を植えて、さらに緑が増えた。これからも木を大切に、自然を守っていきたい。



カイヅカイブキ・クスノキの剪定・枝払いを実施



完成式典の様子



モッコクを記念植樹



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4㎡
植付本数：1本
剪定・枝払い面積：300㎡
剪定・枝払い本数：40本
イベント：1回

参加者数

学内：13人
学外：4人
計：17人

樹種

植付：モッコク
剪定・枝払い：カイヅカイブキ、クスノキ

友情の庭の整備及び樹木の剪定

香川県高松市立檀紙小学校



事業概要

玄関付近の「友情の庭」は、植物が多く、子どもたちに親しみのある場所であった。しかし、年月の経過により、浸食による置き石の移動や樹木の高木化で管理が困難な状況となっていた。そのほか校内には、高木や根の張り出しによる地面の起伏が目立つ箇所があり、安全管理のため専門業者による剪定作業等が必要であった。併せて、教育的効果も見込み、本事業で校内の緑化環境整備を実施した。

事業成果

本事業で、子どもたちに親しみのある「友情の庭」が整備され、様々な活動ができるようになった。縄跳びのジャンピングボードを3台設置し運動に親しめる場所となった。また、以前は木の根の起伏や置き石などがあり活動するに

は危険な状態を改善できたことにより、樹木への興味を促進するだけでなく、昆虫採取や観察なども行えるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・本校の長年の懸案事項であった「友情の庭」の整備が本事業のおかげで解消されたことをうれしく思っている。校舎や体育館の光を遮っていた枝がなくなり照度が増した。石などが配置換えされたおかげで、ジャンピングボードを設置することができ児童の遊び場となった。また、木の根が起伏し危険箇所だったところも平らになり、安心安全な環境が整った。

参加者の声

- ・視界が広がり、学校の印象が明るくなった。子どもたちが安全に運動したり、植物とふれあったりする環境が整った。今後は、「友情の庭」の名前のとおり、子どもたちが交流する場となることを願っている。
- ・根の起伏で転倒し、ケガをするような場所もあったが、今回の事業で整備され、安全に様々な活動に取り組めるようになった。



「友情の庭」整備後（全景）



植樹したマユミ



縮伐して安全になったクスノキ



ジャンピングボードを設置

実績とりまとめ

作業内容

植樹本数：1本
剪定本数：15本
石の再配置
木の根起伏再生

参加者数

学内：603人
学外：約50人
計：約653人

樹種

植樹：マユミ
剪定：クスノキ、ケヤキ、ヤマザクラ、マユミ、ツツジほか

坂出市立金山小学校 くすのきっず緑化整備事業

香川県坂出市立金山小学校



事業概要

本校のシンボルツリーであるクスノキは、子どもたちを見守る大樹であり、その木言葉は「忍耐」である。クスノキが、将来にわたり子どもたちに忍耐の大切さを伝え続けることを願い、大規模な手入れを実施した。また、本校の教育テーマ「優しさ」にちなみ、児童が優しさを育み、次の世代へ受け継がれることを象徴する樹として、木言葉が「優しさ」であるミモザ（ギンヨウアカシア）を植樹した。

事業成果

児童が新しく植えられたミモザの様子を観察したり、剪定後のシンボルツリーであるクスノキの変化を話題にしたりする姿が見られた。木々の成長を自分たちの成長と重ね、「木と一緒に成長していきたい」と未来を思い描く発言もあった。さらに、緑化活動や清掃への自主的な参加、来校者や下級生への説明などを通して、自然に親しみながら主体的に関わろうとする態度が育ちつつある。

事業をよく知る関係者の声

・シンボルツリーであるクスノキの大規模な手入れと、「優しさ」という木言葉をもつミモザの植樹は、本校の教育理念を自然と結びつける象徴的な取り組みであった。一方で、児童や地域との連携が一部にとどまった点は反省材料である。今後は、木々の成長と子どもたちの心の育ちを重ね合わせながら、地域とともに見守り、発信し続けていく姿勢が求められると感じた。

参加者の声

・クスノキの手入れに参加し、その力強い姿に改めて感動した。子どもたちを見守り、長い年月をかけて成長してきた大樹の存在は、私たち教職員にとっても励みになる。クスノキの「忍耐」という木言葉は、子どもたちが困難に負けずに歩いていく力になると感じている。また、新たに植樹したミモザは「優しさ」の象徴として、児童たちが思いやりをはぐくむきっかけになると期待している。



剪定後のクスノキ



ミモザを記念植樹



児童・教職員など32人が参加



新たに設置した表示板の銘文

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
剪定本数：11本
イベント：1回

参加者数

学内：27人
学外：5人
計：32人

樹種

植樹：ミモザ
剪定：クスノキ、カイズカイブキ

天神小学校 まごころの森事業

愛媛県内子町立天神小学校



事業概要

本校は、校訓「まごころ」のもと、ふるさと教育や環境教育に力を入れている。令和7年度に学校創立150周年を迎えるにあたり、校内の樹木等を整備し、学校環境を整えるとともに、緑化事業を通して、環境教育を推進し、児童の豊かな心の育成を図る目的で本事業に取り組むことにした。内容としては、全校児童が校庭の生垣にオウゴンマサキの植樹活動を実施した。

事業成果

生垣に植えていた樹木が古くなり、生垣として十分な役割を果たしてなかったが、今回新しく植樹したことにより学校の美化に寄与し、道路沿いからの景観も良くなった。児童一人一人が丁寧に植樹したことや、児童に身近な校庭に生垣があり、成長を見守ることができることにより、より愛着や興味がわいてきて、緑化への意識が芽生えてくることが期待される。

事業をよく知る関係者の声

- ・完成式典では、全校児童の元気な合唱が行われ、児童代表あいさつで緑化への意識、木を大切に育てていこうという意思が感じられて良かった。全校児童による植樹活動を行うことでそれぞれの児童が緑化について考える良い機会となった。自分が植えた木ということで、良い思い出として残っていくだろう。

参加者の声

- ・今日の活動は、募金に協力してくださった方やローソン関係者の方々のおかげで行うことができた。何年後かに大きくなり地域の人や小中学生が通った時に、すがすがしく思える、そんな木になってほしいという思いを込めて木を植えた。自分たちが天神小学校の前を通った時や、卒業した後も木を植えたことを忘れないと思う。また一つ、天神小学校の良いところできた。



192本のオウゴンマサキの苗



校庭の生垣にオウゴンマサキを全校児童が植樹



児童一人一人が丁寧に植樹



オウゴンマサキの生垣

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：192本
イベント：1回

参加者数

学内：180人
学外：7人
計：187人

樹種

オウゴンマサキ

高須小学校 たかすっこ広場事業

高知県高知市立高須小学校



事業概要

本事業は、学校内にある学校林の環境整備を目的として実施した。学校林は、定期的に手入れを行ってはいるものの、大小様々な樹木が生い茂っており、児童が安全に活動するには適さない環境となっていた。樹木の剪定や伐採を行い、児童が安全に活動できるようにするとともに、学習活動の充実のために、キンカンの植樹も行った。

事業成果

樹木がうっそうと茂る薄暗い学校林が、明るく広々とした広場へと生まれ変わった。児童が活動する際の危険がなくなったため、今後は生活科を中心に、様々な学習活動に活用する予定である。また、児童の投票によって名前を決定したことにより、学校林がより親しみのある場所となった。植樹したキンカンの木も、チョウが来るのを心待ちにしながら育てている。

事業をよく知る関係者の声

- ・葉山庭園の職人の方から、学校林には植樹された樹木のほかにも、外部から飛んできた樹木の種が発芽して成長した樹木が多数生えており、樹木の生長に不適な環境となっているというご指摘があった。本事業により、学校林の樹木数が適正な数に整備され、日当たりも良くなったことで、もともとの樹木の成長が進むという説明があった。

参加者の声

- ・「たかすっこ広場」がきれいになってうれしい。広くなってびっくりした。
- ・もらったノートに絵を描いて大切に使いたい。
- ・スコップで土をかけたキンカンの木が大きくなるのが楽しみ。実がなったら食べたい。
- ・ローソンの募金箱を見たことがある。木を植えるのに使っていると初めて知ったので良かった。



完成式典の様子



キンカンを記念植樹



整備された学校林



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：400㎡
 植付本数：40本
 下刈面積：400㎡
 除伐面積：400㎡
 イベント：1回

参加者数

学内：31人
 学外：5人
 計：36人

樹種

植樹：キンカン
 剪定・伐採：フウ、アオギリ、
 ムクノキほか

内浦小学校 前庭改修事業

福岡県岡垣町立内浦小学校



事業概要

令和6年度に創立150周年を迎えたことを機に、30年前に設置された藤棚を中心に、校舎正面の広場の環境整備を図った。広場は職員玄関前の目立つ場所に位置するため児童や教員、地域の方々にも憩いの場となるよう、以下を実施した。①フジの花が咲かず枝のみが伸長する状態であったため枝の剪定と施肥、②藤棚下の机・ベンチ等は表面の劣化が進んでいたため、高圧洗浄後にペンキを塗布、③三大香木を植樹。

事業成果

フジの枝の強剪定及び施肥を実施することにより、来年度には花の満開が期待される。藤棚下の机・ベンチは、高圧洗浄・ペンキ塗布により美しくよみがえった。周囲の花壇は、用土の



記念植樹



児童・教職員など約30人が参加



三大香木を植樹（秋はキンモクセイ、夏はクチナシ、冬はジンチョウゲの花を咲かせる）



看板を設置

入れ替え、樹木や花苗を植えたことによって景観が良くなった。一年を通じて、屋外での学習や給食等で活用が期待される。

事業をよく知る関係者の声

- ・三大香木の香りが校庭に漂うのが楽しみ。
- ・休みの日にこの場所で、近くのローソンで買ったおにぎりとお茶でお昼ご飯を食べたい。
- ・この広場は単なる施設ではなく、学校の理念や文化、そして未来への希望を体現する場所。児童がここで語り合い、学び、夢をはぐくむ姿を想像すると、大きな喜びとともに、この整備事業の意義の深さを改めて実感する。

参加者の声

- ・創立150周年記念事業で寄付したお金の一部を、この場所の環境改善に使ってもらいうれしい。(PTA会長)
- ・卒業しても、フジの花が咲く頃にここを訪れたい。(完成式典に参加した6年生)
- ・創立150周年という節目を迎える中で、この広場が学校と地域の絆を象徴する存在となることを、心より願っている。(岡垣町教育長)

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：6本
花苗株数：50株
イベント：1回
藤の剪定
藤棚の整備
ベンチ、テーブル、円形台座の塗装

参加者数

計：約30人

樹種

クチナシ、キンモクセイ、ジンチョウゲ

笑い声がこだまする学校林「はってん山」の整備活動

佐賀県立伊万里特別支援学校



事業概要

2年前の本事業では、学校林「はってん山」の老木伐倒、植樹、階段設置を実施したことにより、児童生徒は安全に利用することができるようになった。今回の事業においても「はってん山」の適正な維持管理を図るためには、生徒の行き来が増えることが優先と考え、前回実施した階段延伸工事を中心に整備を行うとともに、木が少なくなっていた場所に広葉樹の植樹を実施した。

事業成果

階段を設置したことで安全に往来できるようになり、春にはサクラや若葉を見ながら「はってん山」に登る生徒の姿が多く見られた。また、生活単元学習や理科で植物や生物の観察などに利用しており、人の行き来が増えている。森や山は手入れをすることでその環境が守られていることを、児童生徒たちは体験できたように思う。また、広葉樹を植樹したことで、明るい雰囲気のある山になった。

事業をよく知る関係者の声

- ・今回、滑りやすく危険だった山道に階段が設置されたことで、地元の方々の「八天宮」へのお参りや、生徒の学習活動も安全にできるようになった。課題としては大きく茂った樹木が敷地外に多くあり、剪定をするのが難しい。地区との協力が今後必要であると感じている。また、学校における定期的な整備計画について、課題が明らかとなった。

参加者の声

- ・「はってん山」はサクラ、ワラビ、ウメ、モミジ、クリなどが四季を知らせてくれる山。歩きやすくなり、みんなと行く機会も増えた。(高等部生)
- ・前は滑って怖かったけど今は楽しい。(小学部生)
- ・学校に山があると、植物観察ができて楽しい。(中学部生)
- ・植樹した木がすくすくと成長してほしい。(高等部生)



清掃活動（下刈の草を集める）



イロハモミジ、ヤマボウシを式典で植樹



完成式典のご来賓の皆様



完成式典後の記念撮影

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：50㎡
植付本数：5本
下刈面積：30㎡
除伐面積：10㎡
階段設置工：20段
イベント：3回

参加者数

学内：66人
学外：10人
計：76人

樹種

イロハモミジ、ヤマボウシ

学校環境緑化モデル事業(学校敷地内の緑化・樹木の手入れ)

大分県臼杵市立臼杵南小学校



事業概要

学校敷地内の緑化及び景観向上を目的として、ジンダイアケボノの植樹、つつじ園の除伐・つる取り・草刈り、樹木の手入れ(テングス病枝の除去)、花壇整備(囲い石の並び替え)を実施した。

事業成果

花壇に植えたチューリップや花々に毎日水をやる子どもたちが増えた。また、つつじ園の横の川沿いにタケが生い茂っていたが、この事業をきっかけに、区長たちが20名ほど参加して、整備してくれた。川沿いの見晴らしも良くなり、地域の活性化につながった。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域の方からは、久しぶりにつつじ園の下草が刈られ、すっきりした。春に花が咲くのが楽しみだという声を聞いている。どうやってこの状態を守っていくかが課題である。地域や保護者の有志を募り、つつじ園を守っていくか、さらなる整備ができるか検討していきたい。

参加者の声

- ・花壇が整備され、ツツジの木がはっきり見えるようになった。春にツツジの花が咲くのが楽しみだ。(児童)
- ・うっそうとしていた山にツツジが植えられ、そのツツジは地域の方が増やしてきたことを聞いておどろいた。さらに大切にしたい。(児童)



花壇整備(作業中)



ジンダイアケボノを記念植樹



児童・教職員など24人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
 植付本数：1本
 下刈面積：1ha
 イベント：1回

参加者数
 学内：12人
 学外：12人
 計：24人

樹種
 ジンダイアケボノ

高千穂町立田原小学校創立150周年記念緑化事業

宮崎県高千穂町立田原小学校



事業概要

本校の運動場周辺は雑草地となっており、木陰をつくる樹木がないため、児童が休み時間や体育の時間に休んだり、散歩に訪れた地域の方々が休憩したりする場所がなかった。今年度、本校が創立150周年を迎えることを契機として本事業に取り組み、児童及び地域の方々がともにくつろげる場とするため、運動場の掲揚台周辺に植樹を行い、木陰を創出することで「憩いの場」を整備することとした。

事業成果

「憩いの場」が完成したことで、散歩をする地域の方が、足を止めて「憩いの場」で休憩をする姿が見られるようになった。植樹した樹木は、2月から4月にかけてオガタマノキの花や香りを、4月から5月にかけてサクラや常緑ヤマボウシ、シラカシの花を、秋にはシラカシの実を、季節に応じて楽しむことができる。樹木によって、児童と地域の方々

と職員のつながりが生まれることを期待している。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域の方々が集える学校となるよう、「憩いの場」の樹木が大きく育ち、木陰で児童や地域の方々がくつろげるような場所になることを楽しみにしている。このような場が学校に整備されたことを、地域の方々に情報発信してほしい。今後も「憩いの場」が、整備・維持されていくことを期待している。(学校運営協議会委員の声)

参加者の声

- ・完成式典でプランターケースに花を入れ「憩いの場」が完成した。樹木が大きく育ち、多くの葉をつけて木陰をつくり、自分たちや地域の方々が休む日陰になってほしい。50年後も樹木が枯れないように、樹木や花の水やり、周辺の雑草抜き等のお世話をしていきたい。(完成式典に参加した児童の声)



完成した「憩いの場」に花壇を設置



「憩いの場」



児童・教職員など55人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：33㎡
植付本数：5本
剪定本数：45本
イベント：1回

参加者数

学内：47人
学外：8人
計：55人

樹種

ジンダイアケボノ、常緑ヤマボウシ、オガタマノキ、シラカシ

伊形小学校「あじさいロード」緑化事業

宮崎県延岡市立伊形小学校



事業概要

本校は、中庭に各学級園があるものの、校門入り口は広い雑草地となっており、有効に活用することができなかと長い間苦慮していた。今回、本事業を活用して、伊形小学校「あじさいロード」の完成を目指し、雑草地の改修を実施した。日常的に花とふれあう機会の充実を図り、子どもたちの情操教育をはぐくんでいく。

事業成果

「あじさいロード」が完成したことで、主体的に花壇の周りの雑草を抜いたり、清掃したりする姿が増え、学校をきれいにしようとする意識が高まった。植樹したアジサイが色とりどりの花を咲かせたことで、来校する方々も大変喜ばれ、保護者・地域の方々・職員との日常の会話にも花が咲くことが多くなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・長年、学校の校門入り口の敷地には雑草しか生えてなかったが、今回100本のアジサイを植樹することができて、とても華やかになった。学校に来られた方々を温かく迎え入れることができるので、大変うれしく感じている。今後は、児童の主体的な活動によって、「あじさいロード」がきれいに維持されていくことを期待している。(学校運営協議会委員の声)

参加者の声

- ・全校のみんなで式典に参加したこと、栽培委員会がアジサイの楽しい劇をしたことで、思い出に残る楽しい式典となった。これから伊形小のみんなで大切に育てていきたい。(完成式典に参加した児童の声)
- ・伊形小学校の自慢の場所になると思うので、保護者も協力して、しっかり見守り育てていきたい。(PTA会長)



アジサイを植樹



事業看板と記念撮影



児童・教職員など286人が参加



「あじさいロード」の完成

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：100㎡
 植付本数：100本
 下刈面積：100㎡
 除伐面積：100㎡
 整地面積：100㎡
 防草シート面積：100㎡
 イベント：1回

参加者数

学内：277人
 学外：9人
 計：286人

樹種

アジサイ

千年幼稚園の GREEN GARDEN 整備事業

鹿児島県鹿児島市 幼保連携型認定こども園 千年幼稚園



事業概要

子どもたちが自然との関わりの中として活用している GREEN GARDEN を緑にふれる活動の幅を広げ、より充実した自然体験を行える場となるよう、季節の花に加え、常緑樹や樹木を植栽することで、緑の成長を身近に感じ、子どもたちが成長の過程を学べる環境を整備する。その中で幼児期までに育ってほしい10の姿の一つ「自然との関わり 生命尊重の心を持つ」幼児を育成する。

事業成果

今回購入したベンチを自然体験活動の休憩スペースとして活用することで、子どもたちに過度な負担をかけない活動運営が可能となった。また、今回植栽したハーブを活用し、自然を感じながら嗅覚を用いた活動も取り入れることができるようになり、活動の幅が広がったように思う。これから育て、実がなる樹木の生長を子どもたちが見守る中で、実がなったときどんな発見があるのか楽しみである。

事業をよく知る関係者の声

- 子どもたちにとって、より充実した場所になるとともに、近隣住民も美しい自然を目にすることができたため、大変良い機会となった。季節の花々は、数か月で枯凋してしまうため、時期を見定め、押し花に活用するなど、その先の活用方法を計画する必要があると感じた。特に、今年度に関しては積雪で花がしおれることもあったため、天候把握とその対策の重要性を再認識した。

参加者の声

- 今回、改めて GREEN GARDEN のデザイン構成を見直し、一目で子どもたちの興味・関心をひく空間となった。種からポットで育てる様子を見ることができたり、その苗を GREEN GARDEN に植栽する体験、花が咲く様子を見て、今まで以上に GREEN GARDEN の状況が気になるようになった。家庭保育において自然体験の機会が減少している中で、とても良い環境を整備する事業だと感じた。



グリーンガーデンを整備



木製ベンチを設置



園児・教職員など約120人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

- 植付面積：252㎡
- 植付本数：5本
- 花苗株数：348株
- 種子：ハーブ7種
- イベント：1回
- 定期的なガーデンへのお散歩(年少～年長)

参加者数

計：約120人

樹種

瀬戸内レモン、ブルーベリー、
ジュンベリー、キンモクセイ、ウメ

緑とふれあう緑化づくり促進事業

鹿児島県伊佐市 菱刈福祉会 慈光保育園



事業概要

新園舎になったことで新たに園庭に花や木々の植栽、更には植樹による植育や親子での様々な緑化活動を強化予定としている。保育学習や保育園を拠点とした広域的な緑化教育の促進、緑化に関連する親子レクリエーションの計画・実施を通じて、楽しむことで緑化の維持を世代ごとに未来へつなげて環境問題への積極的な取り組みを促すことを目的とした。

事業成果

本事業により園庭にコナラ・ナナミノキ・モミジを植え、保育環境の質が向上した。子どもたちは土にふれ、自然への関心や命を大切にすることを育み、季節の変化を身近に感じることで情緒や感性も育まれている。家庭や地域でも自然の話題が増え、園庭の樹木配置の最適化により日陰が増え、遊びの安全性や熱中症対策にも寄与した。今後も手入れを通じて自然と共に育つ保育を実践する。

事業をよく知る関係者の声

- ・本事業により、コナラ・ナナミノキ・モミジの3種を植樹できたことを大変意義深く感じている。植樹を通じて、子どもたちは土に触れ、木を植える喜びを体験し、自然との関わりを実感していた。今後、成長する木々とともに子どもたちも育っていくことを願い、この環境を大切に守っていききたい。本事業に心より感謝申し上げる。

参加者の声

- ・「私が植えた木、大きくなったらみんなで木陰でお弁当食べたいな。」と植樹による遊びの展開や想像力を掻き立てる、自然な環境がもたらす子どもへの力を感じた。
- ・「葉っぱの色が変わったの秋になると赤くなるんだって!」とモミジの植樹体験により、子どもが四季を自然に感じとったり、落ち葉で遊んだり四季や命を感じる大事な情操教育にもなった。



園児の重機操作体験



完成式典での記念植樹



園児・教職員など約21人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：75㎡
植付本数：3本
イベント：1回

参加者数

学内：18人
学外：3人
計：21人

樹種

コナラ、モミジ、ナナミノキ

古蔵小学校環境緑化モデル事業

沖縄県那覇市立古蔵小学校



事業概要

本事業において、植樹や花壇の土壌改良に取り組むことで、校内を緑で満たし、花いっぱい運動や環境教育を通して児童の豊かな心を育成する。また、地球温暖化等の気候変動に対する関心や持続可能な社会を形成するための教育的活動に資する。

事業成果

本校は、ガジュマルなどの南国の樹木はあるものの、花をつける樹木がなかった。今回、サクラ、サルスベリ、サガリバナ等の樹木が植樹されたことにより、児童の自然への興味関心を高め、情操教育に役立つものと考えている。

事業をよく知る関係者の声

- ・毎年、教材園として作物を植えているが、土壌の改善は進んでおらず、使わないときは雑草が生い茂っていた。また、面積が大きいため、年3回のPTA作業で保護者の力を借りて校内の整備をしていた。今回緑化事業の中で、土壌の改良、耕し等の整備のおかげで、気持ちよく教材園が使えることになり、教職員も喜んでいる。

参加者の声

- ・培養土を多く入れてあるので、土壌の状態がいい。これまでも、ナスやオクラ、ジャガイモ等を植えていたが、生育があまりよくなかった。今回土壌の改良をしたおかげで、作物を育てるといふ学びはもとより、理科の授業や総合学習、家庭科の調理実習等の生活に直接関わる授業にも充実して取り組むことができそうである。



各学年花壇の土壌改良を行いイモの苗木を植栽



花木を植樹



完成式典の様子



完成式典にて代表で6年生が肥料撒き

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：125㎡
植付本数：5本
花壇整備：15か所
イベント：1回

参加者数

学内：23人
学外：6人
計：29人

樹種

ヒカンザクラ、サルスベリ、サガリバナ

北中城小学校環境緑化モデル事業

沖縄県北中城村立北中城小学校



事業概要

学校行事である人権の花運動や一人一鉢運動などを通して児童の心の育成を目指す。また、草花だけでなく、そこに集まる生き物を含めた生命のつながりに対する関心を深めることを目的に、アカバナニッペーとピンクテコマの植樹を実施した。

事業成果

今まで校内に卒業式や入学式に花を咲かせる木々が少なかった。今回、植樹してもらったアカバナニッペーやピンクテコマがちょうどその時期に開花時期を迎えるので、春の色の花で季節を知ることができ、子どもたちの門出を祝う雰囲気演出できる。また、校内になかった木を見ることで、子どもたちが木々に興味をもつことが期待できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・長年使用されてきた花壇のため、土が硬く、草花を植えても根が成長しにくかった。土壌改良を行うことで、子どもたちが草花を植える環境をつくることができた。校内にヒカンザクラはあるが、卒業式や入学式の前には開花が終了している。今回、植樹してもらった木々の開花時期がその時期になるので、喜んでいる親子の姿が楽しみである。

参加者の声

- ・登校するとピンクの花が咲いていて、いつもと違ってうれしかった。
- ・花が見られるようにこれから大切に育てていきたい。
- ・卒業式や入学式にたくさんの花が咲くのが楽しみ。
- ・花壇の土がやわらかくなったので、花が植えやすくなった。



各学年花壇の土壌改良



花木を植樹



完成式典の様子



完成式典にて代表で6年生が肥料撒き

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：125㎡
 植付本数：5本
 花苗株数：550株
 花壇整備：6か所
 イベント：1回

参加者数

学内：25人
 学外：5人
 計：30人

樹種

アカバナニッペー、ピンクテコマ